

# 本市子ども教育の 現状と課題

平成 27 年 5 月 18 日  
北九州市教育委員会

## 目 次

<b>1</b>	<b>「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」について・・</b>	<b>1</b>
<b>2</b>	<b>学力、体力・・・・・・・・・・・・・・・・</b>	<b>2</b>
	（1）学力	
	①学力の状況	
	②正答率が向上している学校の主な取組み	4
	③学力に影響を与える要因	5
	④学力向上に向けた主な取組み	6
	（ア）子どもひまわり学習塾	
	（イ）学校大好きオンリーワン事業	7
	（ウ）マイスター教員	
	（エ）子どもの読書活動の推進	8
	（オ）国際理解教育等の推進	9
	（カ）英語教育	10
	（キ）情報教育推進モデル事業	
	（ク）小中一貫・連携教育の推進	11
	（ケ）家庭学習の支援	12
	（2）体力	13
	①体力の状況	
	②運動習慣の状況	14
	③部活動などでの主な実績	15
<b>3</b>	<b>心の育ち、基本的生活習慣・・・・・・・・</b>	<b>16</b>
	（1）自尊感情・規範意識	
	①心の育ちの状況	
	②福原賞・久保田賞	17
	（ア）福原賞	
	（イ）久保田賞	
	（2）基本的生活習慣	18
	①基本的生活習慣の定着状況	
	②基本的生活習慣と学力の関係	19
	（ア）朝食摂取率と学力	
	（イ）携帯電話・スマートフォンと学力	
	③あいさつ	20
	（ア）あいさつの状況	
	（イ）「あいさつ運動優秀実践校」表彰校	
<b>4</b>	<b>いじめ・不登校・・・・・・・・</b>	<b>22</b>
	（1）いじめ	
	①いじめの状況	

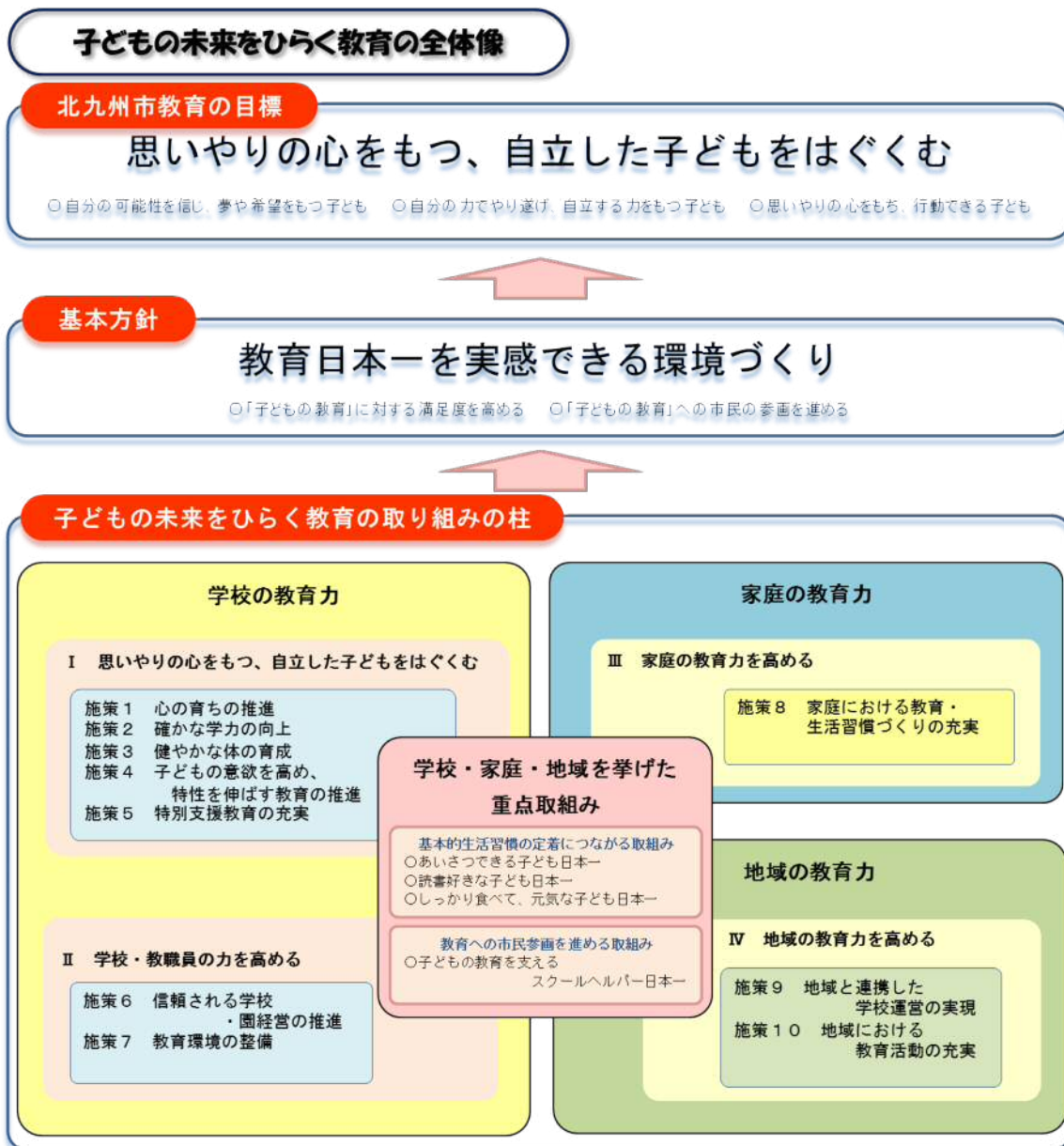
<ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) いじめの発生件数の推移</li> <li>(イ) いじめの出現率</li> <li>(ウ) いじめの主な様態</li> <li>(エ) いじめの解消率</li> <li>(オ) 携帯電話・スマートフォンの使用状況</li> </ul>	23
<ul style="list-style-type: none"> <li>②いじめ防止サミットの開催</li> </ul>	24
<ul style="list-style-type: none"> <li>(2) 不登校</li> </ul>	25
<ul style="list-style-type: none"> <li>①不登校の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 不登校の児童生徒の推移</li> <li>(イ) 不登校の出現率</li> </ul> </li> </ul>	26
<ul style="list-style-type: none"> <li>(3) チーム学校</li> </ul>	26
<ul style="list-style-type: none"> <li>①チーム学校</li> <li>②スクールソーシャルワーカー <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 配置状況</li> <li>(イ) 活動実績</li> </ul> </li> <li>③スクールカウンセラー <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 配置状況</li> <li>(イ) 相談件数</li> </ul> </li> </ul>	27
<p><b>5 特別支援教育</b> . . . . .</p>	<b>28</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 就学相談及び特別支援学校、特別支援学級の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>①就学相談の推移</li> <li>②特別支援学校の状況</li> <li>③特別支援学級の状況</li> </ul> </li> </ul>	29
<ul style="list-style-type: none"> <li>(2) 市立学校における特別支援教育が必要な児童生徒数</li> </ul>	29
<p><b>6 教育環境の整備</b> . . . . .</p>	<b>31</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校施設 <ul style="list-style-type: none"> <li>①学校施設の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 学校施設の経過年数</li> <li>(イ) 学校施設の耐震化の状況</li> <li>(ウ) 大規模改修</li> <li>(エ) 校舎の建替え</li> </ul> </li> <li>②普通教室へのエアコン設置</li> </ul> </li> <li>(2) 学校規模適正化</li> </ul>	32
<ul style="list-style-type: none"> <li>(2) 学校規模適正化</li> </ul>	33
<p><b>7 学校、家庭、地域の連携</b> . . . . .</p>	<b>34</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校でのボランティア等の状況</li> <li>(2) スクールヘルパー</li> <li>(3) 学校支援地域本部事業</li> <li>(4) 経済界との連携による学校支援事業</li> </ul>	35
<ul style="list-style-type: none"> <li>(3) 学校支援地域本部事業</li> <li>(4) 経済界との連携による学校支援事業</li> </ul>	36

1 「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」

教育委員会では、子どもの教育については、「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」（平成26年2月改訂）に基づき、学校、家庭、地域が総がかりで取り組んでいる。

その結果、あいさつ運動が全小中学校で取り組まれ、規範意識や自尊感情など改善傾向にある項目があるなど成果も出てきている。しかしながら、学力や体力づくりへの取り組みをさらに進めていく必要があるほか、子どもの安全で安心な教育環境の実現が一層求められているなど、課題であることも事実である。

これらの課題解決に向けて全力で取り組むとともに、「思いやり心をもつ、自立した子どもをはぐくむ」という本市教育の目標の実現に向けて、今後とも教育プランに基づき、様々な施策を総合的に取り組んでいく。



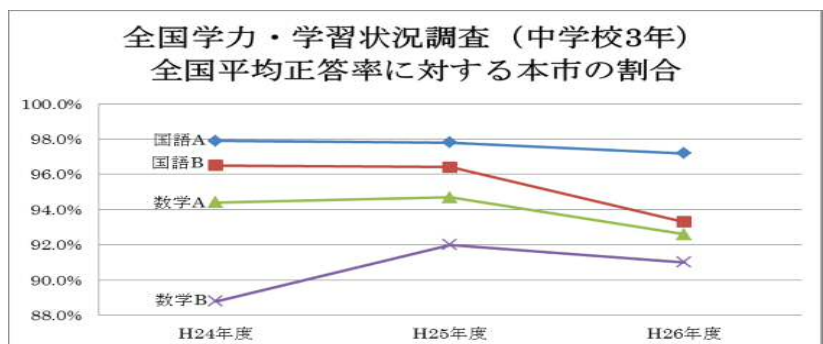
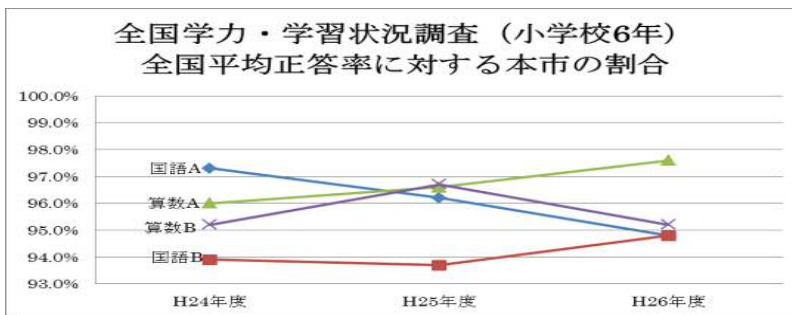
2 学力、体力

(1) 学力

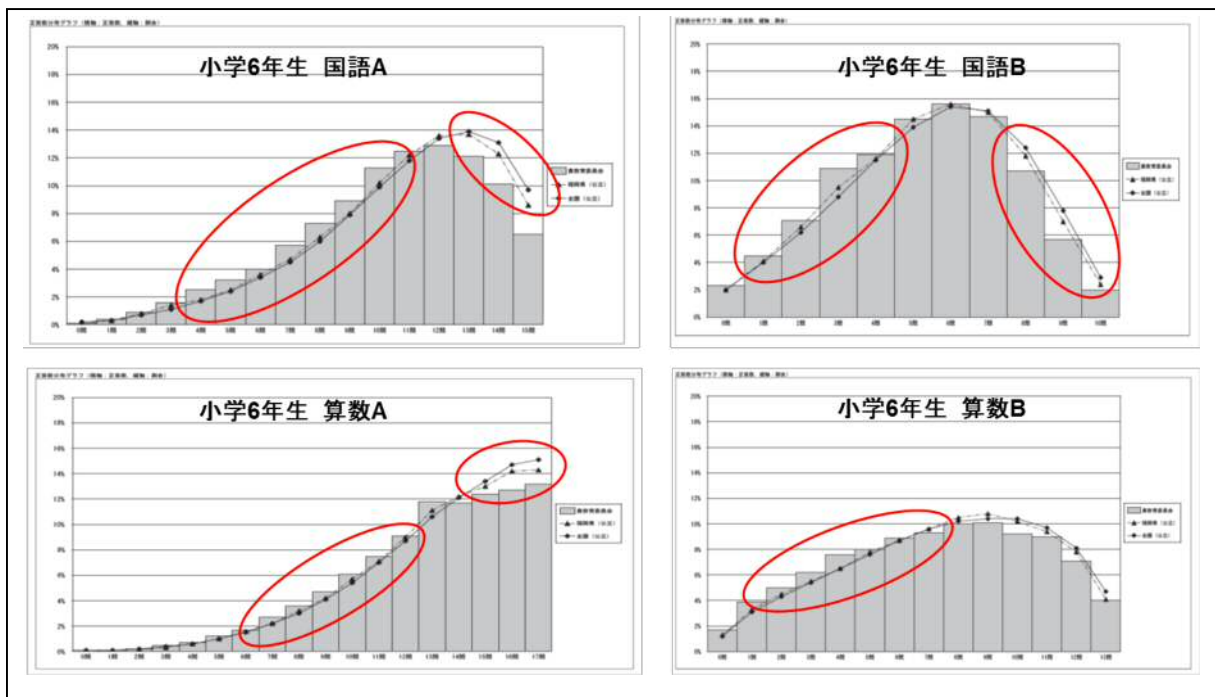
① 学力の状況（全国学力・学習状況調査）

小学校6年		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
H24年度	本市平均正答率	79.4	52.2	70.4	56.1	59.7
	全国平均正答率	81.6	55.6	73.3	58.9	60.9
	全国平均正答率との差	-2.2	-3.4	-2.9	-2.8	-1.2
	全国平均正答率に対する割合	97.3%	93.9%	96.0%	95.2%	98.0%
H25年度	本市平均正答率	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国平均正答率	62.7	49.4	77.2	58.4	
	全国平均正答率との差	-2.4	-3.1	-2.6	-1.9	
	全国平均正答率に対する割合	96.2%	93.7%	96.6%	96.7%	
H26年度	本市平均正答率	69.1	52.6	76.2	55.4	
	全国平均正答率	72.9	55.5	78.1	58.2	
	全国平均正答率との差	-3.8	-2.9	-1.9	-2.8	
	全国平均正答率に対する割合	94.8%	94.8%	97.6%	95.2%	

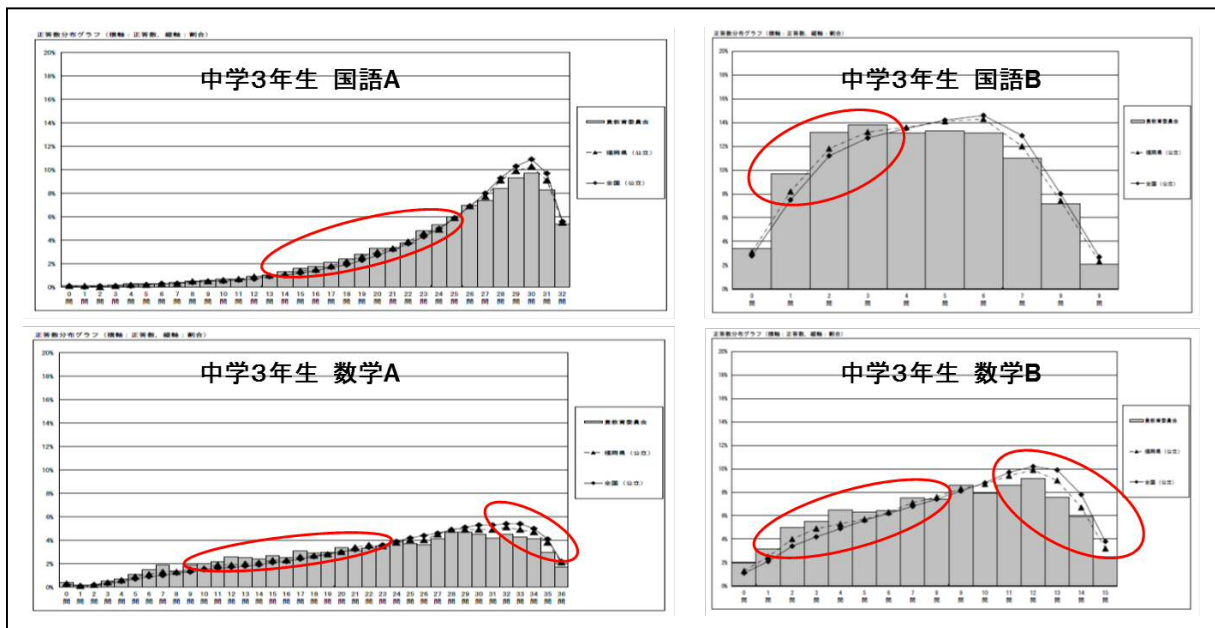
中学校3年		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
H24年度	本市平均正答率	73.5	61.1	58.6	43.8	48.6
	全国平均正答率	75.1	63.3	62.1	49.3	51.0
	全国平均正答率との差	-1.6	-2.2	-3.5	-5.5	-2.4
	全国平均正答率に対する割合	97.9%	96.5%	94.4%	88.8%	95.3%
H25年度	本市平均正答率	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国平均正答率	76.4	67.4	63.7	41.5	
	全国平均正答率との差	-1.7	-2.4	-3.4	-3.3	
	全国平均正答率に対する割合	97.8%	96.4%	94.7%	92.0%	
H26年度	本市平均正答率	77.2	47.6	62.4	54.4	
	全国平均正答率	79.4	51.0	67.4	59.8	
	全国平均正答率との差	-2.2	-3.4	-5.0	-5.4	
	全国平均正答率に対する割合	97.2%	93.3%	92.6%	91.0%	



小学校：正答数分布図



中学校：正答数分布図



(現状と課題)

- 全国学力・学習状況調査の結果では、小6・中3のいずれの学年・教科とも、依然として全国平均正答率を下回っている。
- 正答率の分布等が小学校・中学校ともに平均をやや下回る層が多く、高い層が少ない。

## ② 正答率が向上している学校の主な取り組み

平成26年度 学力向上に向けたピックアップ校一覧

## (小学校)

連続して改善傾向が見られる学校		26年度-25年度		25年度-24年度		特記事項
1	A 小学校	36.0	◎	34.9	◎	
2	B 小学校	20.7	◎	14.7	○	全校一斉のパワーアップタイム（基礎・基本の徹底）の実施。家庭学習習慣の啓発を保護者や地域に徹底して行う。⇒家庭学習時間が急増
3	C 小学校	22.1	◎	8.2		全校で朝自習・学習規律の徹底。4年のときに40人の学級を担当が徹底指導、5・6年で2クラス、継続指導が徹底。
4	D 小学校	16.9	○	7.8		宿題の徹底化（2年かけて、宿題をしてこない3分の1児童を0にした。保護者からのクレームにも毅然とした態度で対応）⇒家庭学習時間が急増
昨年度大きく上がりその傾向が続いている学校						
1	E 小学校	13.0	○	24.1	◎	読みの指導の徹底。給食準備時間に算数道場の実施。
2	F 小学校	6.3		21.8	◎	課題がある子は、担任が日常的に関わり指導を徹底。月・火は職員が放課後指導を継続的に実施。水・木は、子どもまわり学習塾を実施。算数科の研究校として全職員で取り組み、特に一時間での基礎・基本の定着の徹底。
今年度大きく改善傾向が見られる学校						
1	G 小学校	48.7	◎	-41.4	▲	まず校長のやる気、学テに関わる職員や子どもへの声かけ、励まし（自信をもたせる）。給食の合間など隙間の時間を活用。日常的に学習規律の徹底を全校で。
2	H 小学校	39.9	◎	-2.1		全学年で宿題の徹底的チェック。学ぶことの価値や意義を日常的に徹底して指導⇒勉強が大切だと思う児童が増加。
3	I 小学校	38.4	◎	-23.5	▲	昨年度の6年生と比較すると、本年度は落ち着いている。4年生のときには課題があったが、その後学習規律も徹底。宿題のチェックを学年で徹底して実施。
4	J 小学校	35.2	◎	-17.6	△	朝自習の充実（書くことの徹底指導・算数学習では、管理職等が入室し、評価補助）

## (中学校)

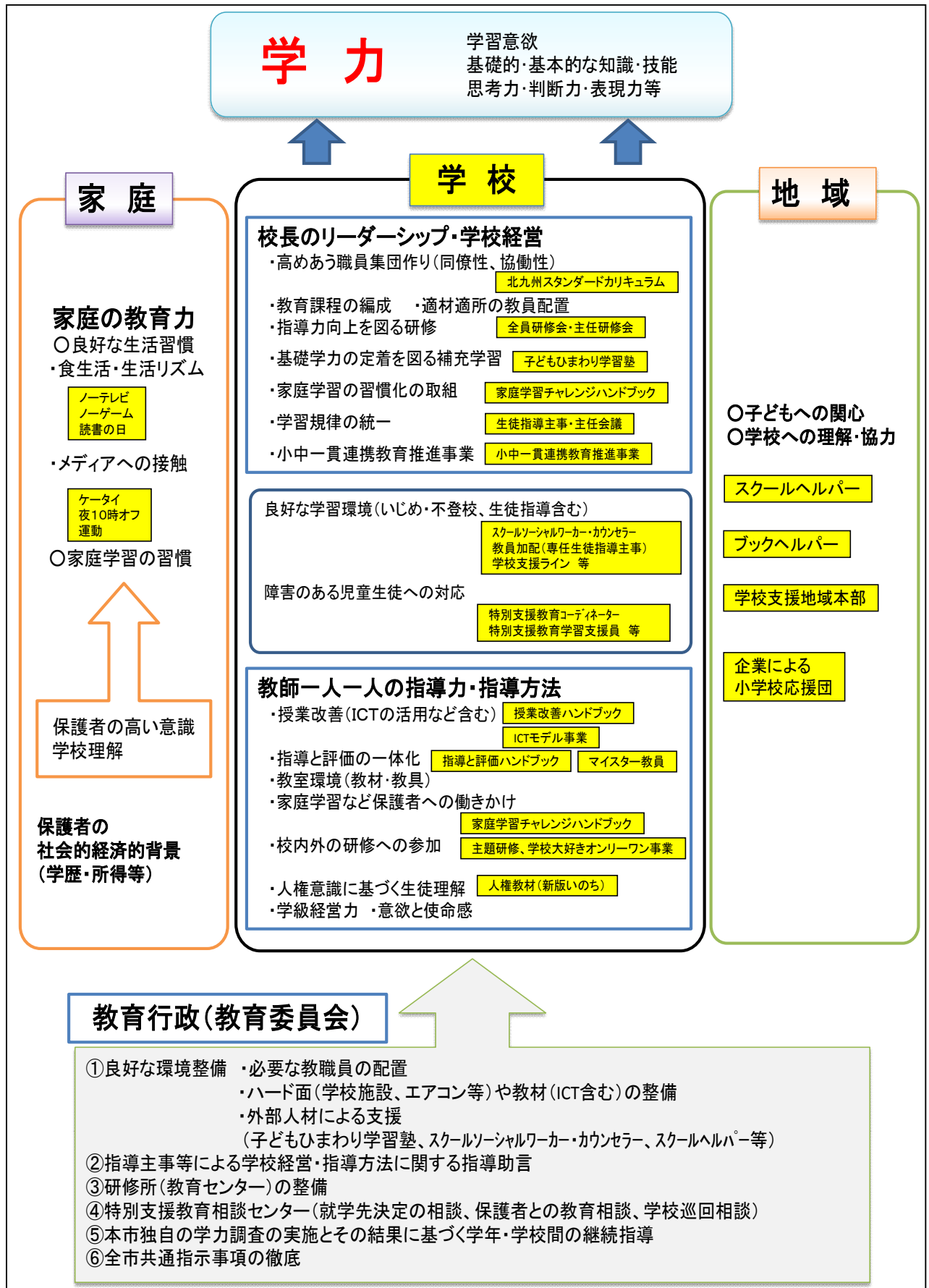
連続して改善傾向が見られる学校		26年度-25年度		25年度-24年度		特記事項
1	A 中学校	16.7	○	3.8		
2	B 中学校	13.7	○	10.7	○	自主学習ノートの継続的な実施。国語科教員の指導がよかったと思われる。（基礎・基本の徹底）
昨年度大きく上がりその傾向が続いている学校						
1	C 中学校	4.1		35.1	◎	学期に2回、経験4年未満の職員の授業研修を実施し、指導力の向上を図る。計算、漢字、首都名・県庁名コンクールを実施し、全学年満点になるまでチャレンジさせる。空き時間に読書活動をする習慣の定着。休み時間には、音楽を流し、落ち着いた雰囲気を作る。
今年度大きく改善傾向が見られる学校						
1	D 中学校	24.4	◎	-3.7		帰りに、基礎学力定着の取組。週末課題の実施。（確認テストも実施）。寺子屋「○○」（放課後学習支援）の実施。
2	E 中学校	24.2	◎	-6.7		宿題などの提出物を徹底して提出させ、評価をした上で、毎日返却する。数学の時間の初めの5分間に本時に関係のある学習内容5問を実施。

※ 全国平均正答率との差を年度ごとに計算し、その値を前年度と比較した数値

※ 全国学テの記号は、前年度調査と比べ、20P以上の改善は◎ 10～19.9P以上の改善は○

20P以上の悪化は▲ 10～19.9P以上の悪化は△で表示。

③ 学力に影響を与える要因





④ 学力向上に向けた主な取組み

(ア) 子どもひまわり学習塾（平成 26 年度から開始）

○概要

児童生徒の学習習慣の定着と基礎的・基本的な内容の定着を図るため、放課後等の時間帯を利用して、学習指導員（大学生や地域の方、教員 OB など）が、子どもたちの自主学習を支援する。

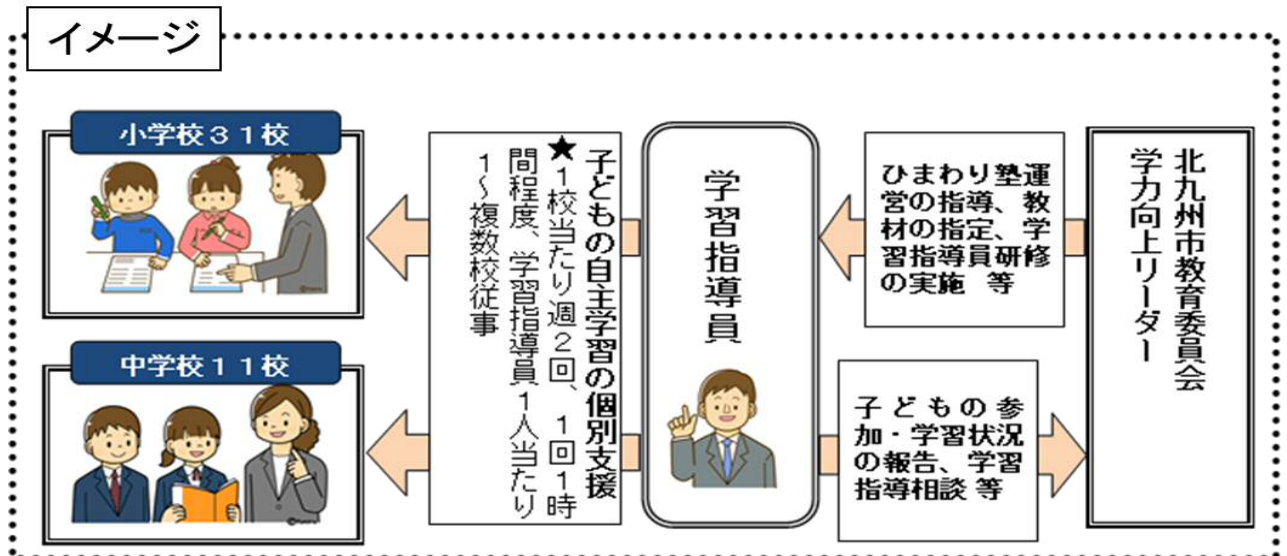
- ・ 週2回、1回あたり1時間程度
- ・ 場所：各小中学校内（余裕教室等）、一部拠点方式
- ・ 内容：小学校：国語・算数、中学校：英語・数学の基礎的・基本的な内容の補充学習
- ・ 方法：児童生徒数人に1人の割合で学習指導員。個別指導による児童生徒の自学自習の学習支援

○平成 26 年度実績

- ・ 小学校 31 校 参加児童（930 名）
- ・ 中学校 11 校 参加生徒（194 名）
- ・ 指導員 約 260 名が登録（大学生、地域住民、教員 OB 等）



イメージ



## (イ) 学校大好きオンリーワン事業

## ○概要

それぞれの教科の実践研究を推進するとともに、専門性の高い指導力のある教師の育成を図るため、長期的に展望に立って、本市小・中学校における教科等教育の研究拠点づくりを推進する。

## ○推進校一覧

学校名	教科等名	平成 26 年度研究主題
折尾西小学校	国語	自分の考えを深め、適切に表現する力を育てる国語科学習指導
あやめが丘小学校	社会	よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科・生活科学習
門司中央小学校	算数	数学的な思考力・表現力を高める算数科学習指導の創造
熊西小学校	理科・生活	豊かな心と自ら学ぶ力をはぐくむ授業の創造 【理科】 科学する心と力をもった子どもを育てる理科授業の創造 【生活科】 子ども自ら活動し、考え、自信を深める生活科授業の創造
日明小学校	音楽	我が国の伝統音楽を中心に、表現と鑑賞の関連を図った指導方法の工夫改善
筒井小学校	図画工作	つくりだすことに熱中する図画工作科学習
花尾小学校	体育	基礎的・基本的な内容の定着を図り、運動の楽しさやできる喜びを味わわせる体育科学習指導法の研究
浅川小学校	道徳	豊かな心を育む道徳教育の創造
大蔵小学校	総合的な学習の時間	地域とのかかわりを通して、確かな学びを育てる授業づくり
小石小学校	特別活動	よりよい学級生活の実現を目指し、本気になって学級活動に取り組む子どもの育成
田原中学校	道徳	豊かな心を育む道徳教育の推進

## (ウ) マイスター教員

## ○概要

他の教員のモデルとなるような優れた教育実践を行っている教員をマイスター教員として認定登録し、他の教員への指導に活かすことなどによって、本市の教員全体の指導力向上を図るもの。

## ○主な活動内容

- ・ 相談：指導案作成や教材、指導法などについての助言
- ・ 講師：教育センターで実施する研修、講座等での講演
- ・ 授業：実際の授業を公開し、他の教員に指導方法を普及

## ○平成 26 年度マイスター教員認定状況（17 名を認定）

区分	小学校（11 人）							中学校（5 人）				幼稚園
	国語	算数	生活・総合	音楽	図工	体育	養護	理科	社会	保健体育	特別支援教育	
人数	4 人	1 人	1 人	1 人	1 人	1 人	2 人	2 人	2 人	1 人	1 人	1 人

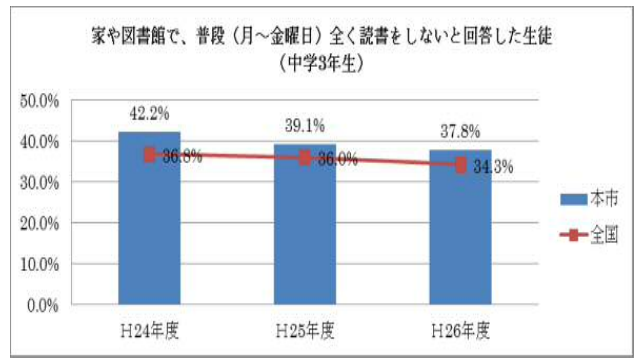
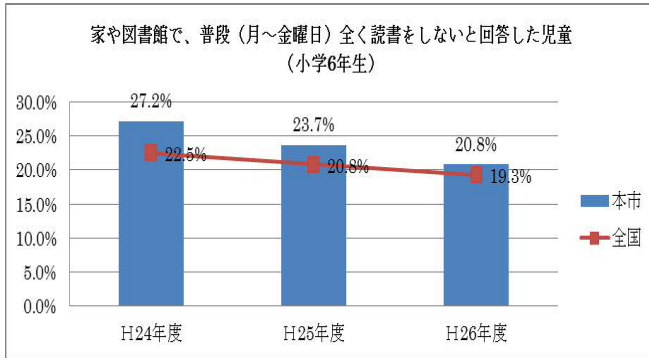
(エ) 子どもの読書活動の推進

○概要

児童生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実させることにより、思考力・判断力・表現力の育成と望ましい読書習慣の形成を図る。

○本市の児童生徒の読書の状況

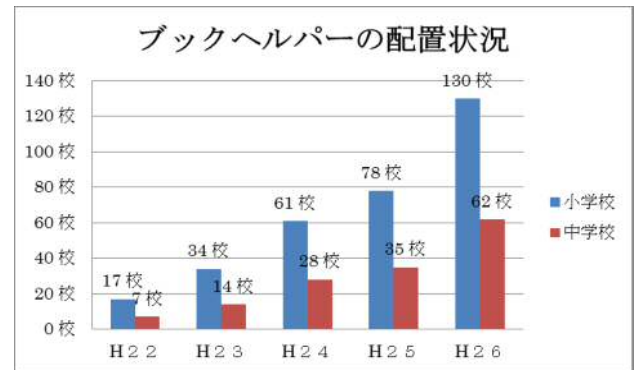
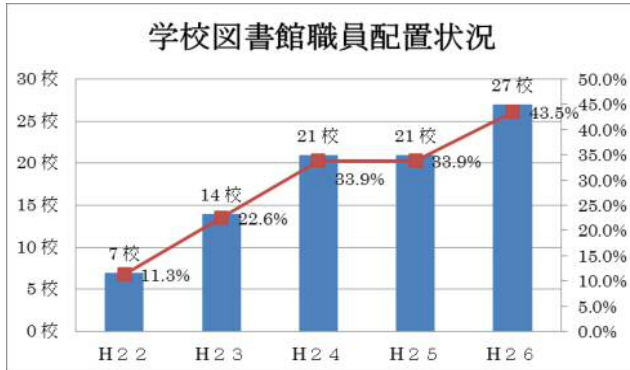
全く読書をしないと回答した児童生徒の割合は、全国に比べ若干高い状況であるが、年々改善傾向（減少傾向）にある。



○学校での主な取組み

- ・学校図書館職員やブックヘルパーを配置

【学校図書館職員及びブックヘルパーの配置状況】



※学校図書館職員は、中学校区に配置し、小学校に派遣

【学校図書館職員の配置による効果】

- ・平成 25 年度の学校図書館職員配置校においては、未配置の前年度に比べ、小学校が 15 校中 13 校、中学校が 6 校中 5 校で、貸出冊数が増加した。
- ・学校図書館のレイアウトや本の展示方法などを工夫することで、子どもたちが利用しやすく、意欲が高まる学校図書館が実現されている。具体的には、子どもの成長段階や学習内容に合わせた適切な選書を行い、その本を子どもたちが、手に取りやすいような提示方法の工夫を行っている。

○学校と中央図書館が連携した取組み

- ・市立図書館の図書資源を授業等で活用するための学校図書セットの充実
- ・学校の読書活動推進リーダーとなる子ども司書養成講座の実施

## (オ) 国際理解教育等の推進

## ○概要

国際社会に貢献できる能力と実践的態度やコミュニケーション能力を備えたグローバル人材を育成するために、国際理解教育、国際交流の充実を図る。

また、本市においては、ユネスコスクールに加盟している学校が中心となり、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を踏まえ、環境教育、国際理解教育、人権教育などに取り組んでいる。

※ユネスコスクールは、グローバルなネットワークを活用し、世界中の学校と交流し、生徒間・教員間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指している。

## 【ユネスコスクール加盟状況及び主な取組み】

年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	合計
小学校	0 校	3 校	2 校	5 校
中学校	1 校	1 校	0 校	2 校

学校名	主な取組み
尾倉中学校	環境問題を通じた国際平和促進と異文化理解教育の実施
赤崎小学校	環境視点から地域を見つめることによる持続可能な地域社会の担い手育成
鞆ヶ谷小学校	児童が自然に親しみ、自然を愛する心情や態度を育てる環境教育

## (カ) 英語教育

## ○概要

小学校・中学校の連携を図り、人間尊重の精神やコミュニケーション能力など、異なる文化をもった人々と共に生きていくための資質や能力を育成する取組みを推進するとともに、英語によるコミュニケーションに対する意欲の向上を図る。

## ○主な取組み

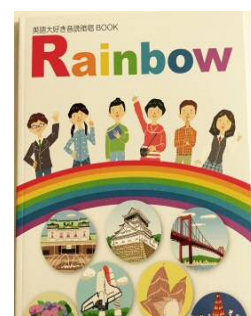
- ・ 小学校の授業等における ALT（外国語指導助手）の配置
- ・ 英語での生活を体験する English Camp の実施
- ・ 英語の発音や表現方法の向上に向けたイングリッシュコンテストの開催
- ・ 中学生の英語の音読の力や英語を話すことの力を伸ばす「英語大好き音読暗唱 BOOK Rainbow」の活用



小学校でのALTの活用



English Campの様子



英語大好き音読暗唱 BOOK Rainbow

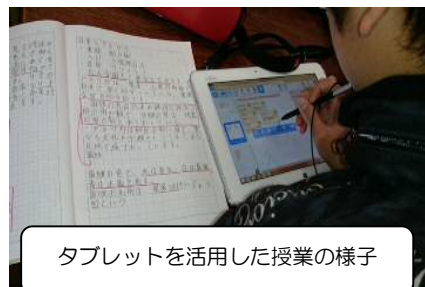
## (キ) 情報教育推進モデル事業

## ○概要

門司海青小学校を情報教育推進モデル校（平成 26 年度～）として、タブレット PC（40 台）と無線環境を整備し、新たな ICT 環境の中で、個々の能力や特性に応じた指導方法の改善を行い、基礎的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、子ども同士が学び合う、新たな学習形態を取り入れた授業改善を行い、児童の確かな学力向上を図る。

## ○研究内容

- ・ 一斉学習：デジタル教科書やコンテンツ等を児童用タブレットや電子黒板に送信し、重要事項の強調や動画などを提示し、児童の興味関心を引く授業作りを研究する。
- ・ 協働学習：児童一人一人がタブレット PC を活用し、子どもたちが収集した情報等をお互いに共有し、意見交換や発表を通して、お互いを高めあう学習方法について研究する。
- ・ 個別学習：デジタルコンテンツ等の活用により、自分に合った進度での学びや、一人一人のつまずきの状況に対応した学習方法について研究する。



タブレットを活用した授業の様子

(ク) 小中一貫・連携教育

○概要

義務教育9年間の学校教育の一層の充実、児童生徒の学力・体力の向上、いじめ・不登校（中1ギャップ）の防止などを目的として、25年度より全ての小中学校で「小中一貫・連携教育」を実施している。

【平成27年度小中一貫教育モデル中学校区】

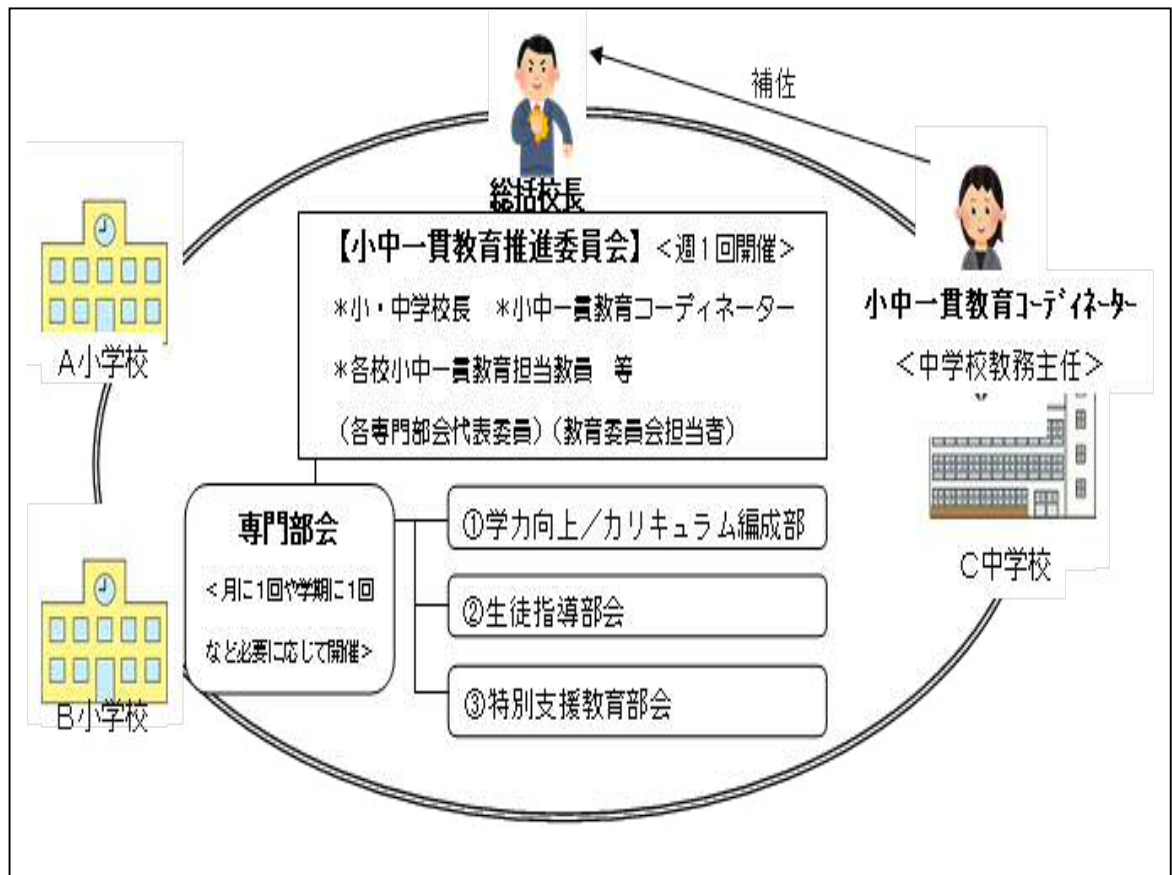
○目的

本市の小中一貫・連携教育の更なる推進を図るとともに、小中一貫教育の制度化に向けた国の動向を踏まえ、より小中学校の円滑な接続を図るため、「小中一貫教育モデル中学校区」を指定し、4-3-2の学年区分に9年間を通じた連続性・系統性のある教育活動の実践行うもの

○モデル中学校区（平成27年度、28年度）

- ・南小倉中学校区（南小倉中学校、南丘小学校、南小倉小学校）
- ・花尾中学校区（花尾中学校、花尾小学校）

○モデル校区イメージ



(ケ) 家庭学習の支援

○概要

家庭学習について教職員が共通認識をもち、児童生徒・保護者に家庭学習の重要性を啓発する取組みを通して、家庭での学習習慣の定着を図る。

○主な取組み

- ・ 学習習慣等の定着を支援するための「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
- ・ 学力の向上を目指して、主体的、計画的、継続的に家庭学習に取り組んだ児童生徒を表彰する「北九州市家庭学習マイスター賞」の実施  
(平成26年度 マイスター賞11名、優秀賞31名)



家庭学習チャレンジハンドブック



家庭学習マイスター賞を受賞した児童の作品



家庭学習マイスターの表彰式の様子

## (2) 体力

## ① 体力の状況（全国体力・運動能力、運動習慣等調査）

## ＜小学校5年生＞

男子		握力 (kg)	上体起 こし(回)	長座体 前屈(cm)	反復横 とび(点)	20mシャ トル(回)	50m 走(秒)	立ち幅 とび(cm)	ソフトボ ール 投げ(m)	体力 合計点
H25年度	本市	16.1	17.7	30.6	37.5	44.0	9.5	149.8	23.9	50.8
	全国	16.6	19.5	32.7	41.4	51.4	9.3	152.0	23.1	53.8
H26年度	本市	16.3↑	18.2↑	31.4↑	38.4↑	43.8	9.5→	149.6	23.5	51.0↑
	全国	16.6	19.6	32.9	41.6	51.7	9.4	151.7	22.9	53.9

女子		握力 (kg)	上体起 こし(回)	長座体 前屈(cm)	反復横 とび(点)	20mシャ トル(回)	50m 走(秒)	立ち幅 とび(cm)	ソフトボ ール 投げ(m)	体力 合計点
H25年度	本市	15.8	16.3	34.8	35.1	32.7	9.8	141.7	13.7	51.0
	全国	16.1	18.0	36.8	39.0	39.6	9.6	144.5	13.9	54.7
H26年度	本市	15.9↑	16.9↑	36.3↑	36.2↑	33.2↑	9.7↑	140.2	13.5	51.5↑
	全国	16.1	18.3	37.2	39.4	40.3	9.6	144.8	13.9	55.0

## ＜中学校2年生＞

男子		握力 (kg)	上体起 こし (回)	長座体 前屈 (cm)	反復横 とび (点)	持久走(秒)	20mシャ トル(回)	50m走 (秒)	立ち幅と び(cm)	ソフトボ ール 投げ (m)	体力 合計点
H25年度	本市	29.2	26.7	43.0	50.8	389.7	83.8	8.0	192.0	20.1	41.0
	全国	29.2	27.5	43.1	51.0	393.9	84.9	8.0	193.6	21.0	41.7
H26年度	本市	29.4↑	26.5	43.5↑	50.6	376.3↑	84.0↑	8.0→	194.3↑	20.6↑	41.1↑
	全国	29.0	27.4	42.9	51.3	393.7	85.0	8.0	193.4	20.8	41.6

女子		握力 (kg)	上体起 こし (回)	長座体 前屈 (cm)	反復横 とび (点)	持久走(秒)	20mシャ トル(回)	50m走 (秒)	立ち幅と び(cm)	ソフトボ ール 投げ (m)	体力 合計点
H25年度	本市	23.5	21.5	44.7	43.7	295.9	54.0	8.9	164.8	12.0	46.3
	全国	23.7	23.0	45.1	45.2	292.7	57.2	8.8	166.1	12.9	48.4
H26年度	本市	23.5→	21.9↑	44.8↑	44.1↑	287.3↑	55.2↑	8.9→	165.9↑	12.1↑	46.6↑
	全国	23.7	23.0	45.3	45.6	291.1	57.8	8.9	166.5	12.8	48.6

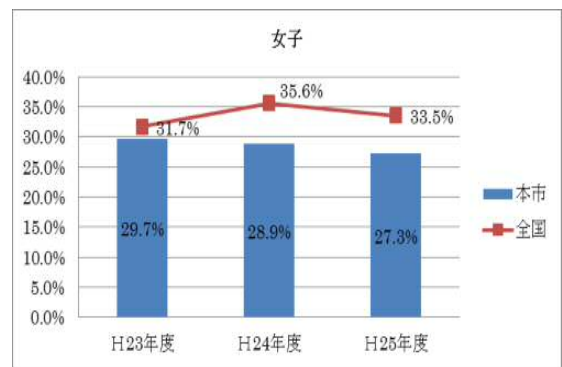
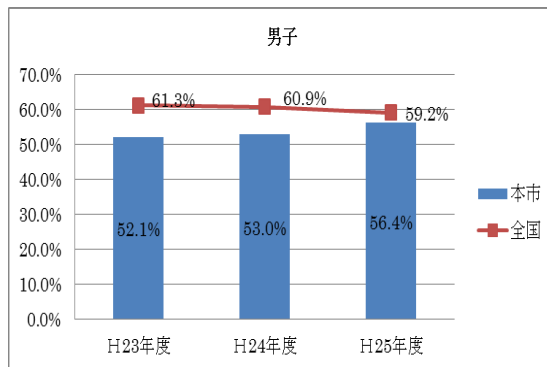
※表中の網掛けは、全国平均値と比較して同等以上の項目

※表中の矢印は、本市前年度との比較（↑は上昇、→は同等を示す）

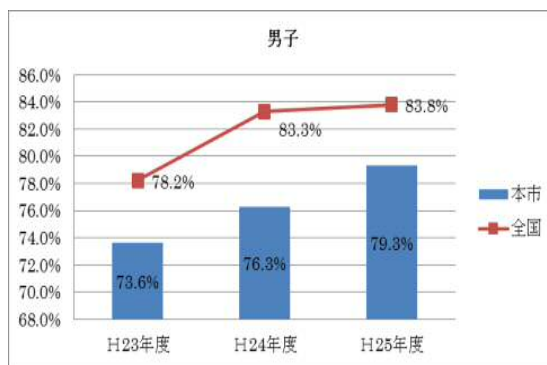


## ② 運動習慣の状況

○ほとんど毎日（週に3日以上）、運動やスポーツをする児童生徒の割合  
 <小学校5年生>



<中学校2年生>



## (現状と課題)

- 全国体力・運動能力調査の結果では、多くの項目で全国平均を下回っている。しかしながら、中学校を中心に、前年度より向上している項目もあり、改善の傾向もある。
- 子どもの運動実施頻度（ほとんど毎日（週に3日以上）、運動やスポーツをする児童生徒の割合）が全国と比較すると少ない。

## ③ 部活動などでの主な実績（平成 26 年度）

大会等	実績
国体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州市立高校…陸上競技（女子 1500m、女子 3000m）</li> <li>・引野中学校…体操（女子団体）</li> </ul>
インターハイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州市立高校…陸上競技（女子 1500m、女子 3000m）</li> </ul>
全国高校駅伝大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州市立高校…女子陸上部</li> </ul>
全国中学校体育大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思永中学校…陸上競技（女子 200m）</li> <li>・白銀中学校…柔道（男子 81kg）</li> <li>・篠崎中学校…陸上競技（女子 800m）、 水泳競技（男子 100mバタフライ）</li> <li>・広徳中学校…陸上競技（男子 3000m）</li> <li>・曾根中学校…柔道（男子 60kg）</li> <li>・沼中学校…陸上競技（男子 110H）</li> <li>・湯川中学校…陸上競技（男子 110H）</li> <li>・守恒中学校…陸上競技（女子 1500m、女子走高跳）</li> <li>・横代中学校…卓球（男子団体）</li> <li>・沖田中学校…パトミントン（男子シングルス）</li> <li>・枝光台中学校…陸上競技（男子走高跳）</li> <li>・中央中学校…バレーボール（男子）</li> <li>・大蔵中学校…柔道 （男子団体第 3 位、男子 55 kg、男子 66kg 優勝）</li> <li>・浅川中学校…陸上競技（男子 400m、女子 1500m）</li> <li>・二島中学校…バスケットボール（女子）</li> <li>・折尾中学校…バスケットボール（女子） 優勝</li> <li>・引野中学校…体操（女子個人）</li> </ul>
全日本マーチングコンテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木屋瀬中学校銅賞</li> </ul>
マーチングバンド全国大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志徳中学校銅賞</li> <li>・香月中学校銅賞</li> </ul>

## （現状と課題）

- ・平成 26 年度は、部活動に参加している生徒が 7 割を超えており、増加傾向にあるなど各学校で部活動が盛んに行われている。
- ・地区大会や全国大会で優秀な成績を残す部活動もあり、生徒が一生懸命、部活動に取り組んでいる姿が見られる。

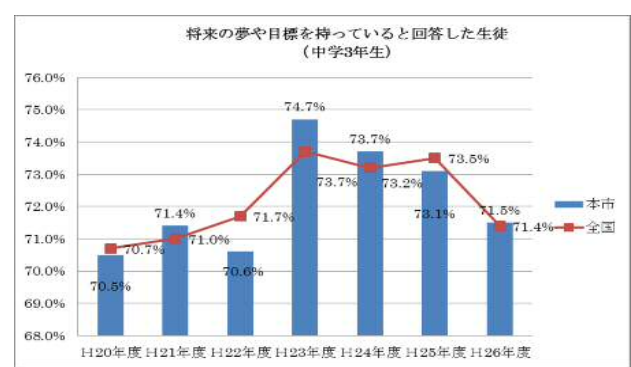
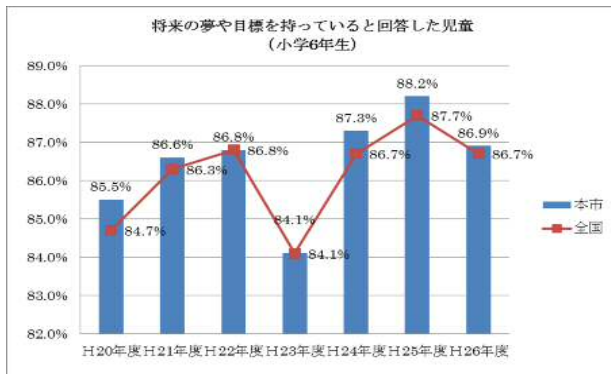
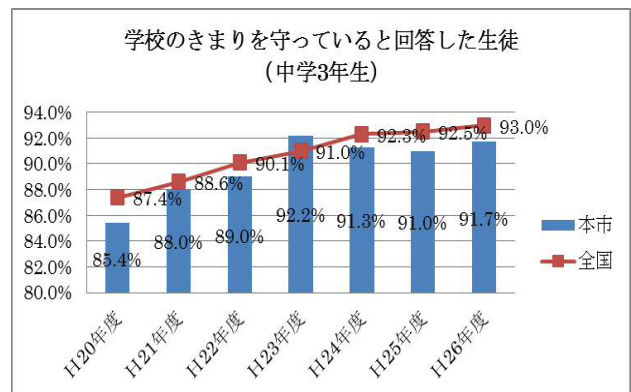
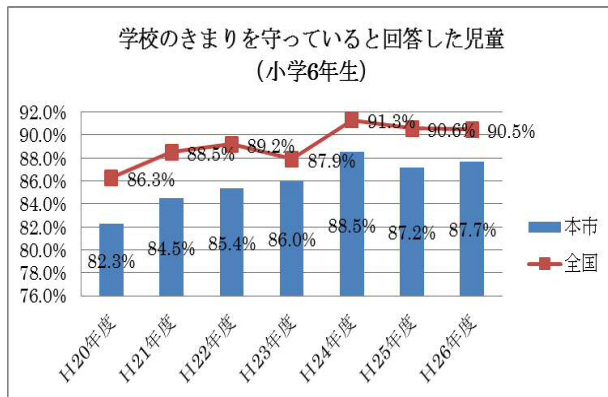
3 心の育ち 基本的生活習慣

(1) 自尊感情・規範意識

① 心の育ちの状況

項目		H24 年度		H25 年度		H26 年度	
		本市	全国	本市	全国	本市	全国
学校のきまりを守っている	小学6年生	88.5%	91.3%	87.2%	90.6%	87.7%	90.5%
	中学3年生	91.3%	92.3%	91.0%	92.5%	91.7%	93.0%
自分には良いところがある	小学6年生	73.6%	76.8%	72.2%	75.7%	72.1%	76.1%
	中学3年生	65.7%	68.2%	64.2%	66.4%	66.2%	67.1%
将来の夢や目標を持っている	小学6年生	87.3%	86.7%	88.2%	87.7%	86.9%	86.7%
	中学3年生	73.7%	73.2%	73.1%	73.5%	71.5%	71.4%

(全国学力・学習状況調査)



## ② 福原賞・久保田賞

教育委員会では、小中学校の善行（人命救助等）やボランティア活動、文化的・体育的活動や調査活動等で顕彰すべき行為や成果をあげた児童生徒を表彰する。

## (ア) 福原賞（小学校及び特別支援学校（小学部））

【平成 26 年度実績】個人 13 人 団体 4 団体

団体名	受賞理由
桜丘小学校 (児童会(全校))	<b>あいさつ運動 ボランティア</b> あいさつ運動を全校で積極的に取り組んでいる。また、ボランティアでは「ブルタブ」「ペットボトルキャップ」の回収し、小倉北区社会福祉協議会の福祉事業に役立てている。
若松中央小学校 (アンニョンクラブ)	<b>地域貢献(フンムル演奏)</b> 民族打楽器演奏フンムル(農楽)を練習し、毎年学習発表会で披露している。毎年地域の祭である「高塔山あじさい祭り」に参加している。その他にも地域の行事で演奏を行い、地域へ貢献している。
大里南小学校 (大里太鼓クラブ)	<b>クラブ 地域貢献(太鼓演奏)</b> 地域の伝統芸能「大里太鼓」をクラブ活動に取り入れ、地域の方の指導の下、子ども達に豊かな体験と心を育てる活動を継続している。毎年、地域行事に積極的に参加し披露している。24年間で多くの卒業生も育った。地域行事参加の折には協力に駆けつけ、先輩から後輩へと地域の伝統芸能が継がれている。
牧山小学校 (鼓笛隊)	<b>地域貢献</b> 牧山小学校では、6年生になると全児童が鼓笛隊のメンバーとなり、授業時間や休み時間を使って年間100日以上での練習に励む。牧山東まちづくり協議会主催の川まつりには、毎年参加するなど地域へ貢献している。

## (イ) 久保田賞（中学校及び特別支援学校（中学部））

【平成 26 年度実績】個人 16 人 団体 6 団体

## ○団体の受賞理由

団体名	受賞理由
二島中学校 (女子バスケットボール部)	<b>部活動(バスケットボール)</b> 大会で優秀な成績をおさめた。
木屋瀬中学校 (吹奏楽部)	<b>部活動(吹奏楽) 地域貢献</b> 大会で優秀な成績をおさめるとともに、地域での演奏や高齢者への年賀状配布など地域へ貢献している。
霧丘中学校 (吹奏楽部)	<b>地域貢献(部活動 あいさつ)</b> 地域でのボランティア演奏や率先してあいさつを行っている。
枝光台中学校 (野球部)	<b>地域貢献(清掃活動 あいさつ)</b> 毎週月曜日に清掃活動及びあいさつ運動を行っており、地域の人に喜ばれている。
足立中学校 (生徒会執行部)	<b>地域貢献(清掃活動)</b> 毎週月曜日に清掃活動を行っている。その功績が認められ、北九州国道事務所とボランティア・サポート・プログラムに基づく協定を締結し、今後も清掃活動等に取り組んでいく。
富野中学校 (生徒会 ボランティア部)	<b>地域貢献(あいさつ運動 清掃活動 ボランティア)</b> 生徒会が朝のあいさつ運動に取り組むとともに、校区内の清掃活動を行っている。ボランティア部も放課後の校門前清掃などを行なっている。ペットボトルキャップを集め、ワクチン代にかえる取組みを行っている。

## (現状と課題)

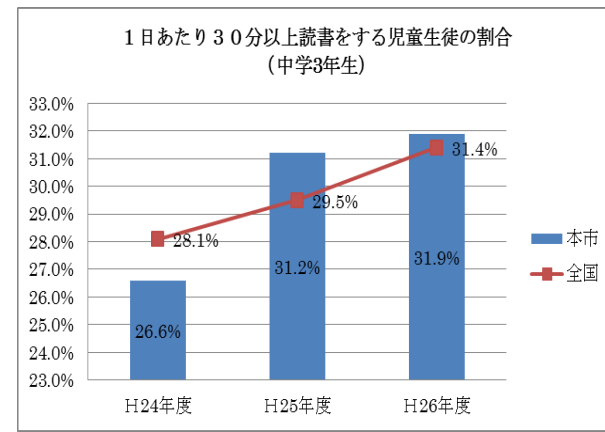
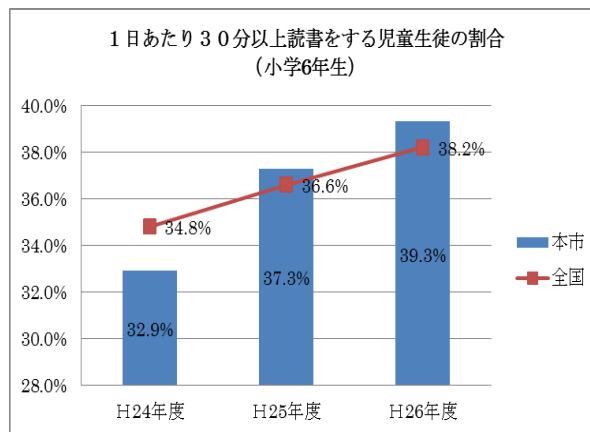
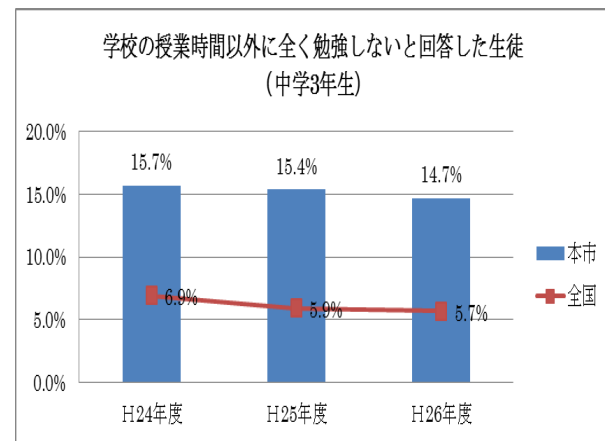
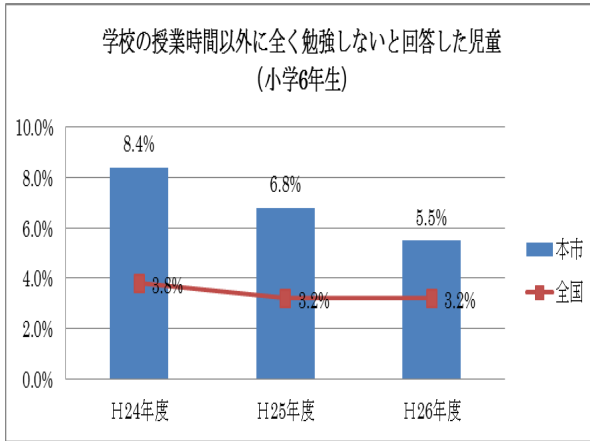
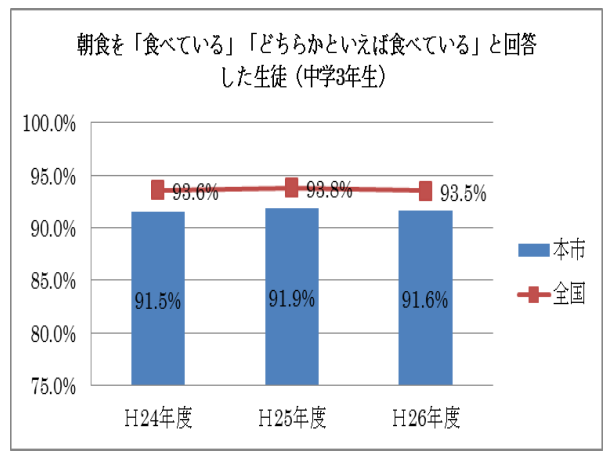
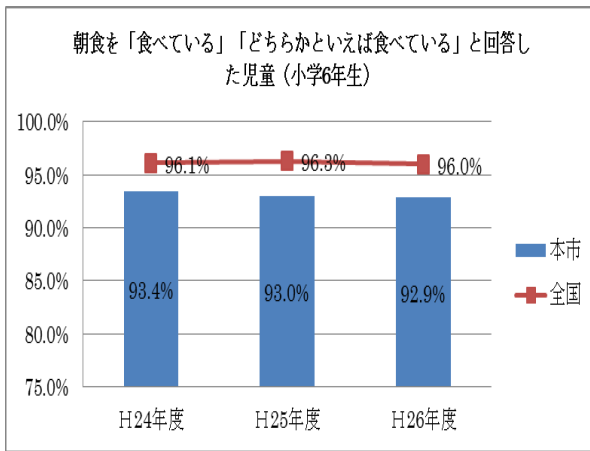
- ・規範意識や自尊感情に関する調査結果では、小学生、中学生ともに数値が向上しているものの、小学校では全国平均を下回り、中学校では全国平均と同程度の状況である。
- ・本市の多くの子どもが将来の夢や目標をもっている状況である。また、奉仕活動などに積極的に参加している児童生徒も見られ、地域の方からも感謝されている。

(2) 基本的生活習慣

① 基本的生活習慣の定着状況

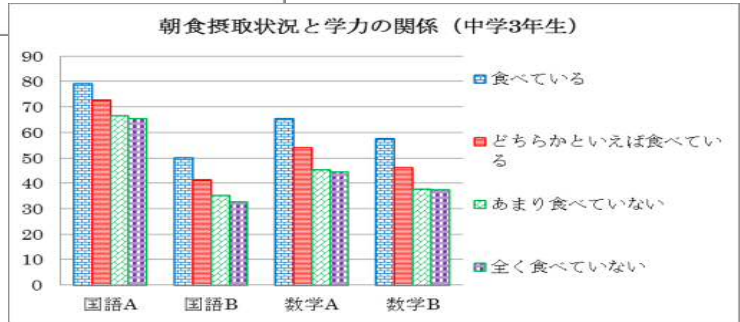
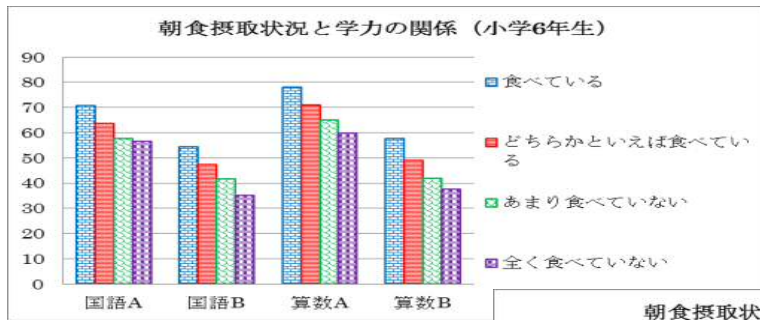
項目		H24 年度		H25 年度		H26 年度	
		本市	全国	本市	全国	本市	全国
朝食を「食べている」「どちらかといえば食べている」児童生徒の割合	小学6年生	93.4%	96.1%	93.0%	96.3%	92.9%	96.0%
	中学3年生	91.5%	93.6%	91.9%	93.8%	91.6%	93.5%
授業時間以外で全く勉強しないと回答した児童生徒の割合	小学6年生	8.4%	3.8%	6.8%	3.2%	5.5%	3.2%
	中学3年生	15.7%	6.9%	15.4%	5.9%	14.7%	5.7%
小学校・中学校ともに、1日あたり30分以上読書をする児童生徒の割合	小学6年生	32.9%	34.8%	37.3%	36.6%	39.3%	38.2%
	中学3年生	26.6%	28.1%	31.2%	29.5%	31.9%	31.4%

(全国学力・学習状況調査)

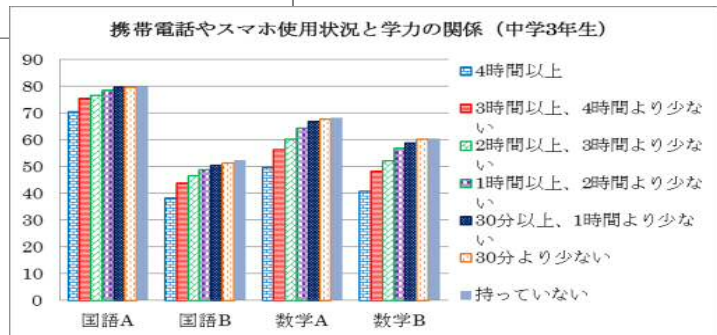
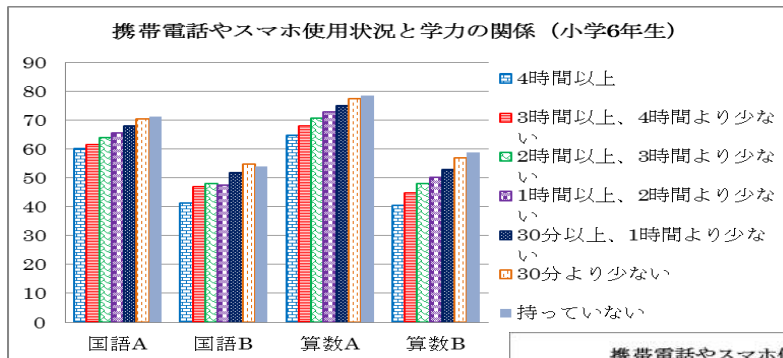


② 基本的生活習慣と学力の関係

(ア) 朝食摂取率と学力



(イ) 携帯電話・スマートフォンと学力



(平成 26 年度全国学力・学習状況調査)

(現状と課題)

- 朝食摂取率は、小学 6 年生、中学 3 年生とも 9 割を超えている状況ではあるが、全国と比べて若干低い。
- 家庭で全く学習をしない児童生徒は、全国と比べ非常に多い状況であるが、一方で、30 分以上読書をする割合は児童生徒とも全国平均を上回っている。
- 小学 6 年生、中学 3 年生とも朝食を摂取している児童生徒の方が、全国学力・学習状況調査の正答率が高い傾向がある。
- 小学 6 年生、中学 3 年生とも、携帯電話やスマートフォンの一日の使用時間が長くなるほど、全国学力・学習状況調査の正答率が低い傾向がある。

③ あいさつ

(ア) あいさつの状況

項目		H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度
あいさつの取組みを学校評価に取り入れ その改善に努めている学校の割合	小学校	49.2%	50.4%	61.1%	100%
	中学校	41.3%	51.6%	67.8%	100%

項目		H19 年度	H22 年度	H25 年度	H26 年度
近所の人に出会ったときは、あいさつを しているか	小学3年生	89.9%	90.0%	91.3%	87.4%
	小学4年生	90.2%	92.5%	94.4%	89.2%
	小学5年生	86.1%	87.2%	92.1%	91.2%
	小学6年生	88.3%	86.4%	91.4%	91.2%
	中学1年生	87.2%	88.1%	90.1%	86.7%
	中学2年生	85.6%	87.0%	86.5%	89.6%
	中学3年生	84.5%	86.2%	89.0%	83.5%

(北九州市教育実態調査)



(イ) 「あいさつ運動優秀実践校」表彰校

平成26年度から、特色ある「あいさつ運動」を展開し、他の模範となる優秀な取組みを実践している学校を「あいさつ運動優秀実践校」として表彰している。

○表彰校及び受賞理由

【小学校】

学校名	表彰理由
小森江東小学校	児童代表委員会で6月を「あいさつ運動強化月間」と定め、全児童が縦割りで班を作り取り組むとともに、「あいさつ+1」運動を推進し、あいさつに一言を加えて、より温かみのあるあいさつ運動に取り組んでいること
桜丘小学校	3年前から全校で取り組み、児童が自ら考えたさまざまなアイデア（「引継ぎ式」やポスター、標語の掲示等）を実施するなど、児童主体の取り組みになっていること
寿山小学校	児童のアイデアで作成したオリジナルキャラクター「おはくまくん」を様々な教育活動で活用し、あいさつ運動を啓発したことで、自らあいさつする子が多くなったこと
西小倉小学校	全児童を60の縦割りの班にわけ、毎日、取り組んでいる。また、参加児童にはスタンプを集めると「あいさつ名人認定証」をもらえるなど児童の意欲を高める工夫をしていること
吉田小学校	あいさつの良い児童を「あいさつマスター」として、壁新聞で紹介し、より良いあいさつを全校で目指して取り組んでおり、地域の方や保護者からも評価されていること
星ヶ丘小学校	登校時に全児童生徒が、スクールヘルパーや保護者、教職員と握手をしながらあいさつを、毎日、行っている。児童も登校時だけでなく、校内でも進んであいさつを行っていること

## 【中学校】

学校名	表彰理由
早鞆中学校	学級ごとにあいさつを全員で行う期間を設定し、参加率の高さを競うなど、意欲向上を図っている。保護者や地域の方からもあいさつ運動を評価されていること
高須中学校	「挨拶標語コンクール」を取組み、優秀作品を校内に掲示するなど、生徒の挨拶に対する意欲を高めている。また PTA ともオリジナルのベスト等を作成するなど、あいさつ運動などを連携して取り組んでいること
永犬丸中学校	生徒会で、あいさつ啓発の動画 DVD を作成し、校区内の 3 小学校に配るとともに、あいさつについて、児童生徒で話し合いの場を設けるなど、工夫しながら取り組んでいること
木屋瀬中学校	朝のあいさつ指導や授業始業終業時におけるあいさつ指導を徹底している。また、礼についても指導し、心のこもった挨拶につながることにについても指導している。地域の方や保護者から良いあいさつができていると評価され、学校への信頼につながっていること



握手とあいさつを交わす登校風景



クラスみんなであいさつ運動

## (現状と課題)

- 全ての小中学校で、あいさつ運動が展開されている。学校内でのあいさつはもちろん、地域でもあいさつを行っている児童生徒が 9 割程度いる。
- また、地域においては、登下校時に子どもたちの見守りがかねて、保護者や地域の方などが校門や通学路に立っていただき、子どもたちとあいさつを交わしている姿を市内各地で見ることができる。



## 4 いじめ・不登校

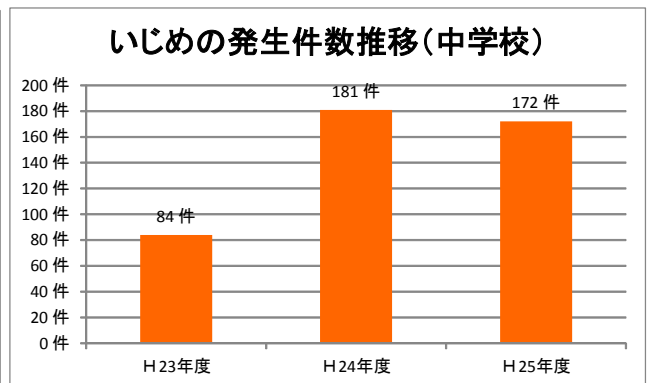
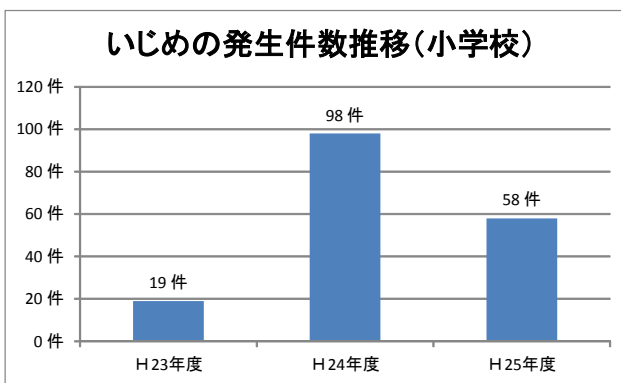
### (1) いじめ

児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。（いじめ防止対策推進法第2条）

#### ① いじめの状況

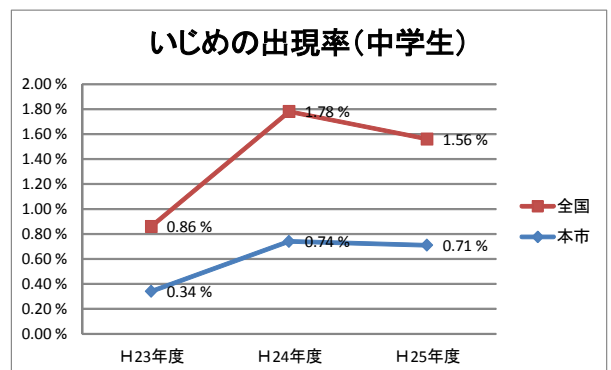
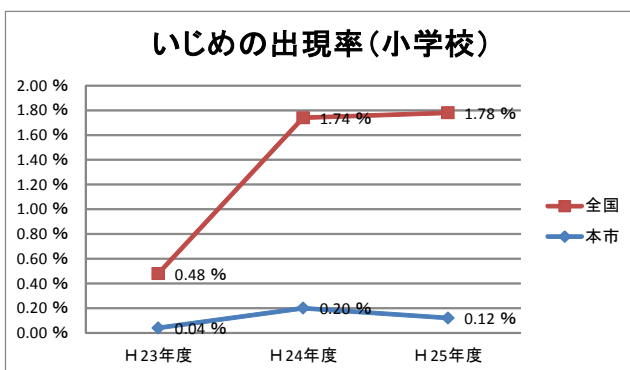
##### (ア) いじめの発生件数の推移

	H23年度	H24年度	H25年度
小学校	19件	98件	58件
中学校	84件	181件	172件

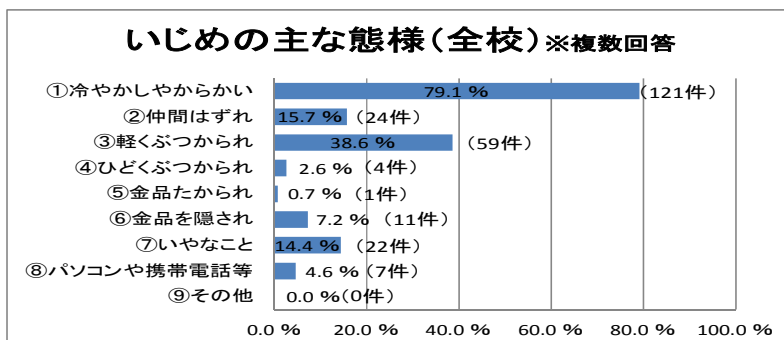


##### (イ) いじめの出現率（全国との比較）

	H23年度		H24年度		H25年度	
	本市	全国	本市	全国	本市	全国
小学校	0.04%	0.48%	0.20%	1.74%	0.12%	1.78%
中学校	0.34%	0.86%	0.74%	1.78%	0.71%	1.56%



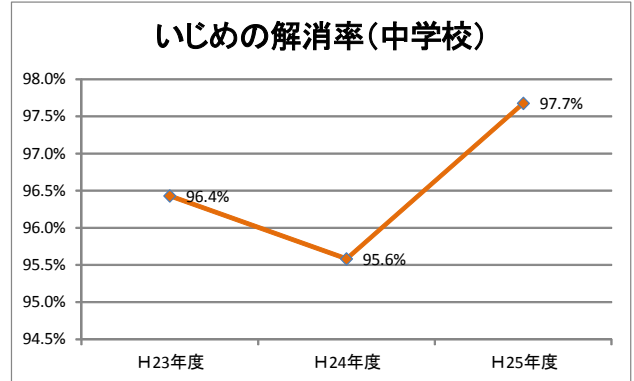
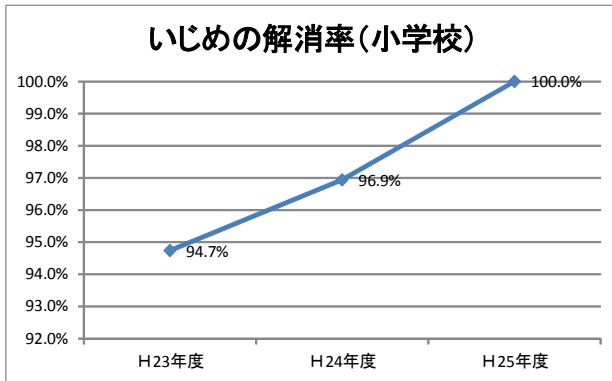
##### (ウ) いじめの主な態様



(平成26年度いじめに関する実態調査)

(エ) いじめの解消率

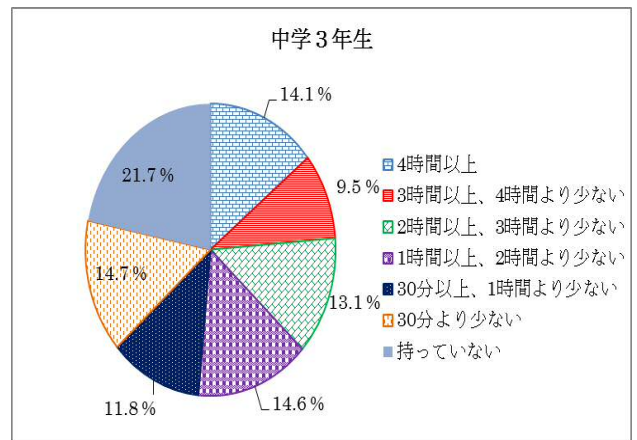
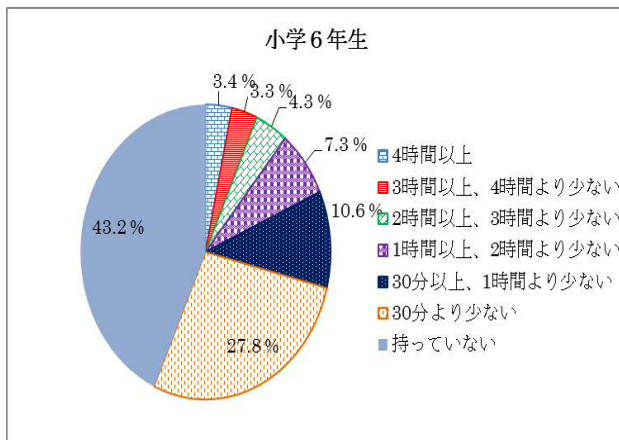
項目		H23年度	H24年度	H25年度
小学校	認知件数	19件	98件	58件
	解消又は一定の解消件数	18件	95件	58件
	解消率	94.7%	96.9%	100%
中学校	認知件数	84件	181件	172件
	解消又は一定の解消件数	81件	173件	168件
	解消率	96.4%	95.6%	97.7%



(オ) 携帯電話・スマートフォンの使用状況

○普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)

項目		4時間以上	3時間以上、 4時間未満	2時間以上、 3時間未満	1時間以上、 2時間未満	30分以上、 1時間未満	30分未満	持っていない
小学6年生	本市	3.4%	3.3%	4.3%	7.3%	10.6%	27.8%	43.2%
	全国	2.7%	2.3%	3.7%	6.4%	10.4%	28.4%	46.0%
中学3年生	本市	14.1%	9.5%	13.1%	14.6%	11.8%	14.7%	21.7%
	全国	10.8%	8.7%	12.9%	15.2%	13.2%	15.9%	23.1%



(平成26年度全国学力・学習状況調査)

## ② いじめ防止サミットの開催

いじめ撲滅に向けた意識の高揚を図るため、8月に「いじめ防止サミット in 北九州」を開催している。

平成26年度は市内131校の小学校と63校の中学校から各3名の代表児童生徒が集まり、いじめ撲滅に向けた取組みを話し合い、次の事項を決定した。

## ●スローガン

なくそういじめ！ふやそう笑顔！

## ●北九州市いじめ撲滅宣言

- ・私たちは、自分やみんなの心と体を気にかけて大切にします。
- ・私たちは、あなたの悲しみを自分の悲しみとして受け止めます。
- ・私たちは、いじめを許さず、仲間と一緒に考えます。
- ・私たちは、自分たちができることから実行し、いじめのない北九州市をめざします。

## ●クローバーキャンペーン（クローバーシールを全児童生徒に配布）

## ●いじめ撲滅啓発ポスター配布

## ●いじめを生まない携帯電話やスマートフォンの使い方やルールについて

- ・ケータイ・スマホ 夜10時オフ
- ・相手を傷つけることは使わない
- ・困ったときはおとなに相談する



※これらの内容については、平成27年1月に東京で開催された「全国いじめ問題子供サミット」において、本市の代表として5人の児童生徒が発表を行った。

## （現状と課題）

- ・いじめ発生件数は、平成24年度から、全児童生徒を対象とした「いじめ実態調査」を実施しているため、前年度に比べ増加している。
- ・また、平成26年6月に、いじめの防止等（いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処）のための対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針である「北九州市いじめ防止基本方針」を策定するとともに、いじめの防止等のための調査研究等、有効な対策を検討するため専門的見地からの審議等を行う「北九州市いじめ問題専門委員会」を設置した。
- ・本市の小学6年生で約6割、中学3年生で約8割の子どもが毎日、携帯やスマートフォンを利用している。
- ・SNSや無料通話アプリなどの普及により、従来型のネットパトロールなどだけでは、対応が困難である。
- ・北九州市PTA協議会では、「ケータイ夜10時電源OFF運動」を掲げ、
  - 夜10時になったら、子どもも大人もケータイやスマホの電源を切る
  - 子どもと話しあってケータイ・スマホの使い方についてのルール作りをする
 など、子どもたちだけでなく、保護者も一緒になって取り組んでいる。

## (2) 不登校

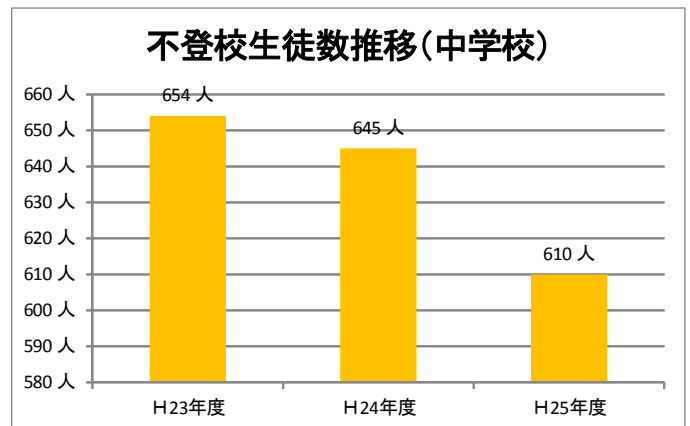
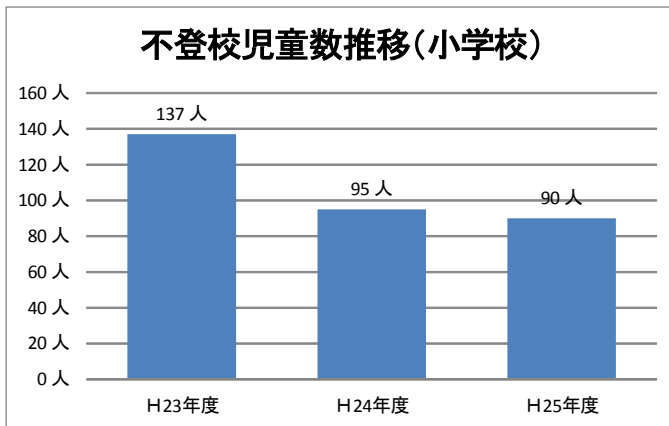
長期欠席者のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあること（ただし、「病気」や「経済的な理由」によるものを除く。）なお、欠席状態が長期に継続している理由が、学校生活上の影響、あそび・非行、無気力、不安など情緒的混乱、意図的な拒否及びこれらの複合であるもの。

長期欠席者・・・年度間に連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒。

## ① 不登校の状況

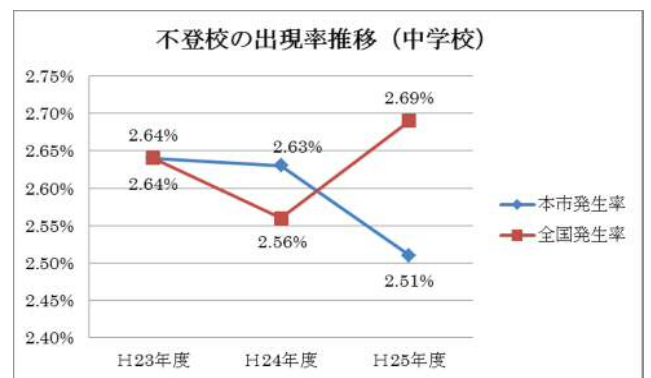
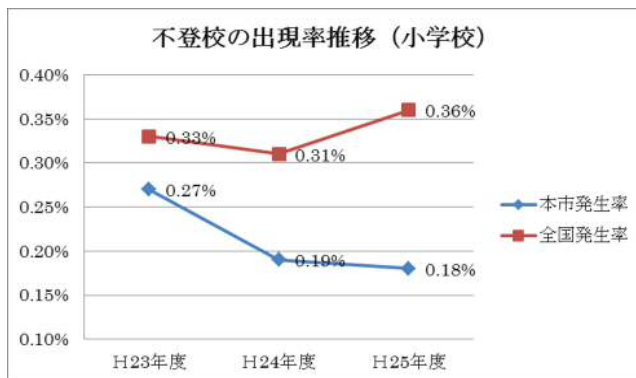
## (ア) 不登校の児童生徒の推移

	H23年度	H24年度	H25年度
小学校	137人	95人	90人
中学校	654人	645人	610人



## (イ) 不登校の出現率(全国との比較)

		H23年度	H24年度	H25年度
小学校	本市	0.27%	0.19%	0.18%
	全国	0.33%	0.31%	0.36%
中学校	本市	2.64%	2.63%	2.51%
	全国	2.64%	2.56%	2.69%



## (現状と課題)

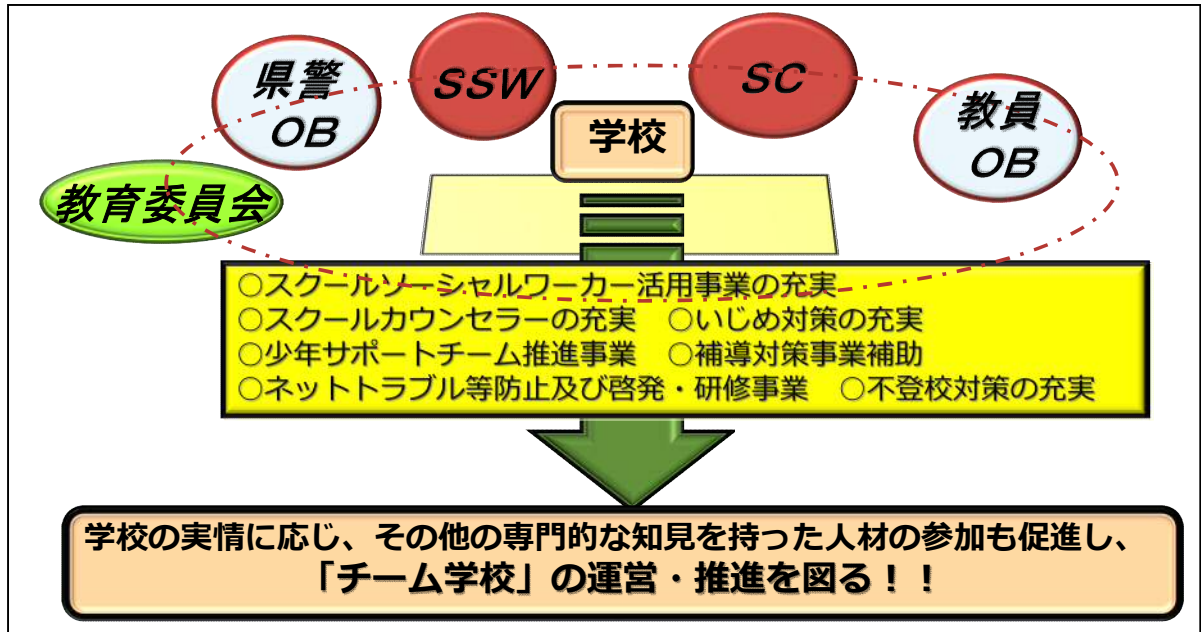
- 本市の不登校の児童生徒数は、減少傾向にある。
- 一方で、問題が複雑で学校だけでは対応が困難な事例もあり、今後も引き続き、学校、家庭、地域、関係機関が連携し、問題に取り組んでいくことが必要である。

(3) チーム学校

① チーム学校

教育に加え、多様な専門性を持つ外部スタッフを配置し、支援体制の整備・充実を図り、子どもをめぐる様々な問題（貧困、いじめ、不登校等）に対応するもの。

(イメージ)



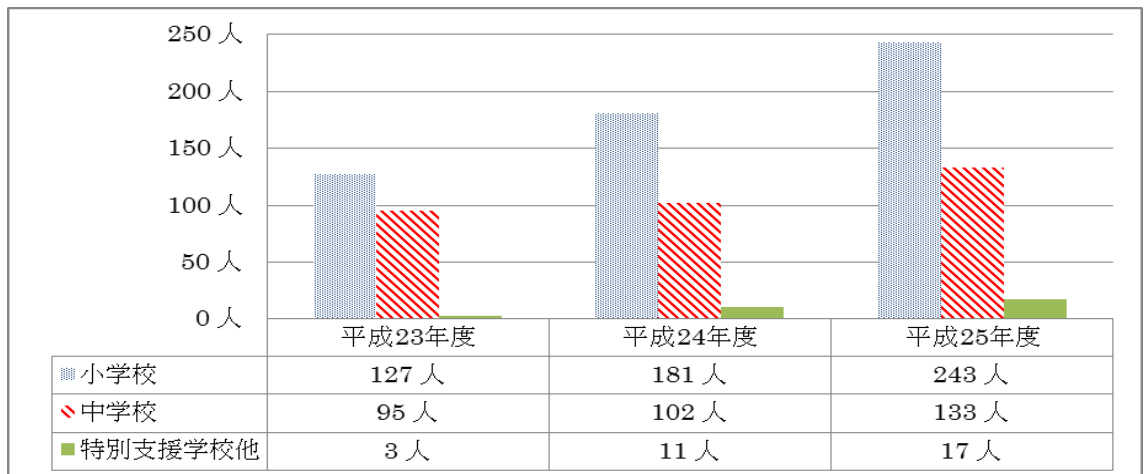
② スクールソーシャルワーカー（SSW）

問題を抱える児童生徒が置かれた複雑な家庭環境に働きかけたり、関係機関との連携の強化を図る専門職。

(ア) 配置状況（教育委員会に配置）

H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
2 人	2 人	4 人	4 人	6 人	7 人

(イ) 活動実績



(教育委員会調べ)

## ③ スクールカウンセラー（SC）

児童生徒の臨床心理に関して、高度に専門的な知識・経験を有する臨床心理士等の「心の専門家」。

## (ア) 配置状況

平成 16 年度 全市立中学校にスクールカウンセラーを配置

平成 19 年度 拠点校方式として、中学校から校区の小学校へ派遣

## (イ) 相談件数

23 年度	24 年度	25 年度
26,290 件	26,323 件	26,121 件

## (内訳)

	23 年度	24 年度	25 年度
生徒のみ	8,120 件	9,022 件	8,718 件
保護者のみ	2,499 件	2,194 件	2,346 件
生徒と保護者	562 件	743 件	549 件
教員	13,878 件	13,411 件	13,683 件
その他	1,231 件	953 件	825 件
計	26,290 件	26,323 件	26,121 件

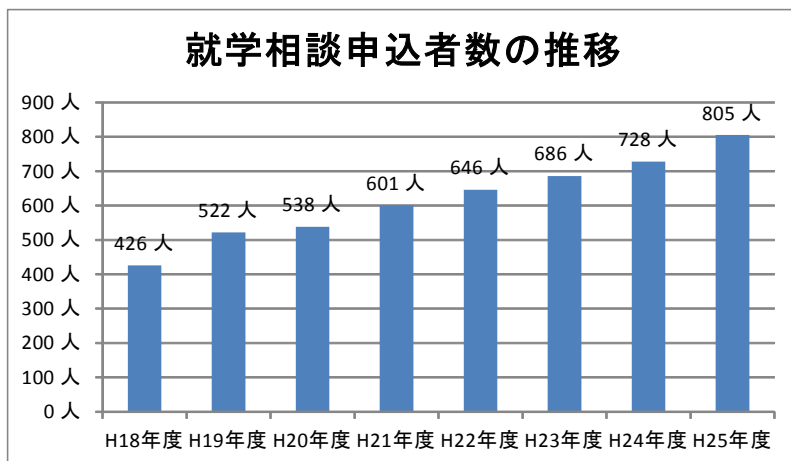
(教育委員会調べ)

## 5 特別支援教育

## (1) 就学相談及び特別支援学校、特別支援学級の状況

## ① 就学相談の推移

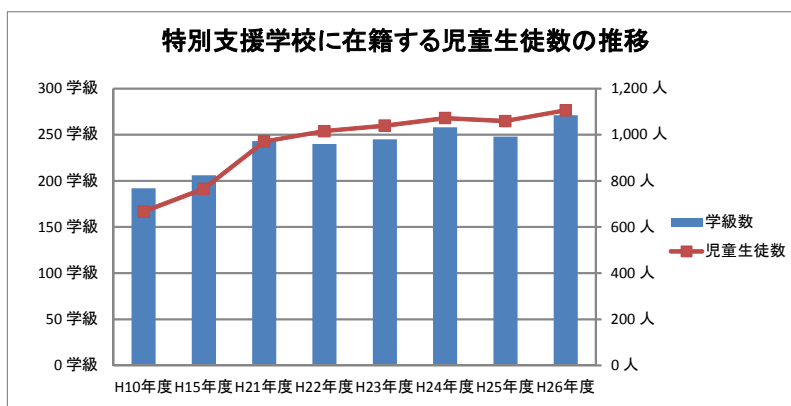
	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
相談申込者(人)	426	522	538	601	646	686	728	805



(教育委員会調べ)

## ② 特別支援学校の状況

	H10年度	H15年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
学級数(学級)	192	206	243	240	245	258	248	271
児童生徒数(人)	666	765	970	1,015	1,039	1,072	1,059	1,105

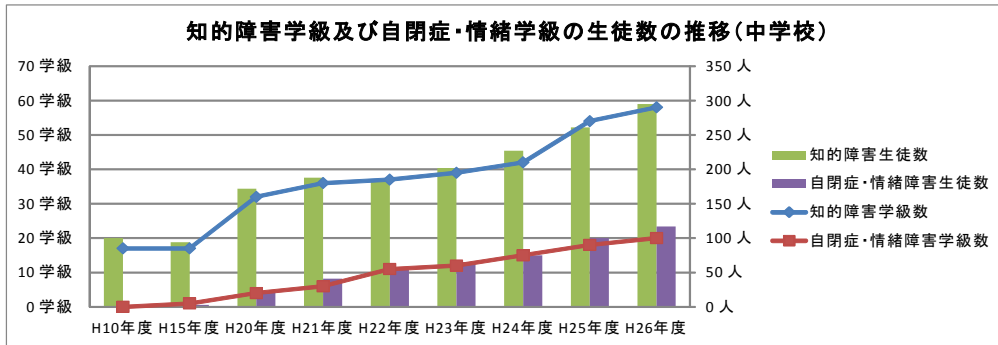
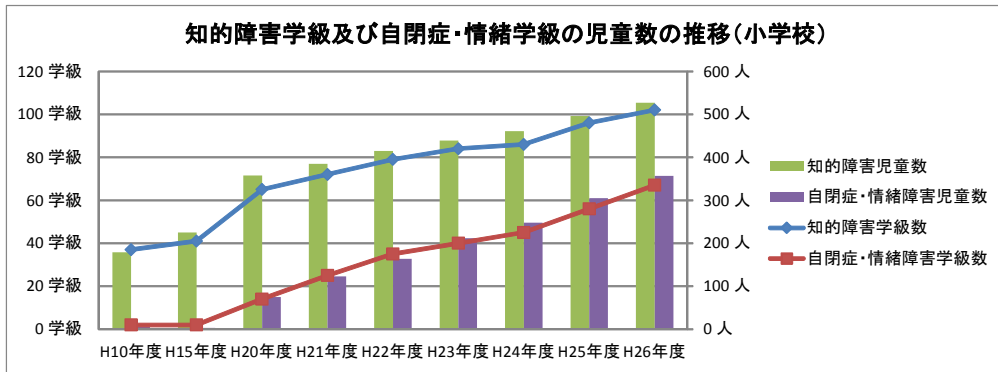


(教育委員会調べ)

## ③ 特別支援学級の状況

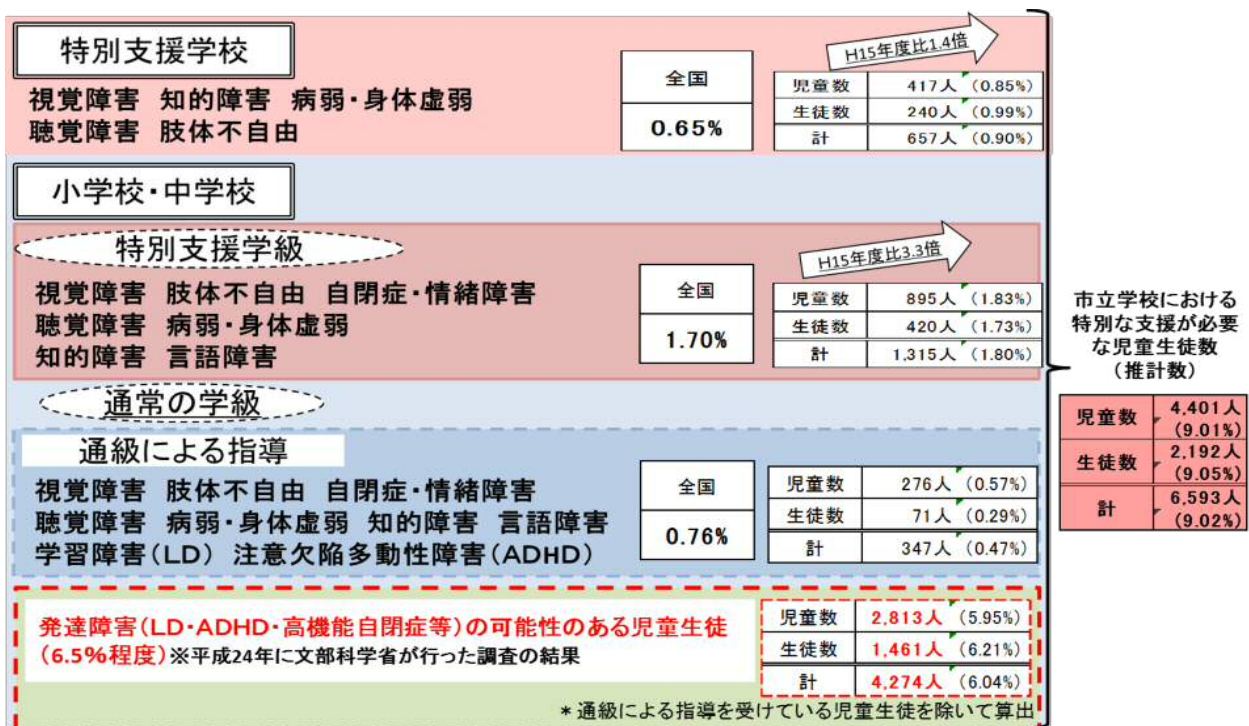
小学校	H10年	H15年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年
知的障害学級数(学級)	37	41	72	79	84	86	96	102
自閉症・情緒障害学級数(学級)	2	2	25	35	40	45	56	67
知的障害児童数(人)	195	225	385	415	439	461	496	527
自閉症・情緒障害児童数(人)	5	3	123	164	212	248	305	357

中学校	H10年	H15年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年
知的障害学級数(学級)	16	17	36	37	39	42	54	58
自閉症・情緒障害学級数(学級)	0	1	6	11	12	15	18	20
知的障害生徒数(人)	84	94	188	186	202	227	261	295
自閉症・情緒障害生徒数(人)	0	3	41	55	65	75	100	117



(教育委員会調べ)

(2) 市立学校における特別支援教育が必要な児童生徒数(平成26年度義務教育段階)



(参考) 市立学校在籍者数推移(義務教育段階)

	平成15年度	平成26年度
児童数	53,521人	48,837人
生徒数	26,184人	24,227人
計	79,705人	73,064人

※平成26年度の在籍者数は、平成15年度比0.9倍



(現状と課題)

- 就学相談申込者数や特別支援学校及び特別支援学級の在籍者数は、年々増加傾向にあり、保護者等からの特別支援教育の充実に対する期待は大きい。
- 特別支援学校及び特別支援学級の在籍者数は、毎年増加傾向にあり、さらなる環境の教育整備及び校内支援体制の充実が求められている。今後は、全市的な視野に立ち、特別支援教育及び特別支援学校の体制整備について検討が必要である。

6 教育環境の整備

(1) 学校施設

① 学校施設の状況

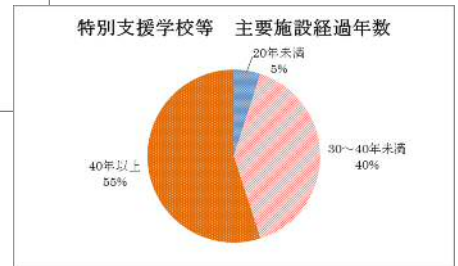
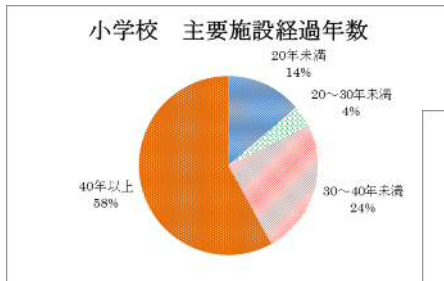
(ア) 学校施設の経過年数

経過年数	小学校	中学校	特別支援学校
20年未満	18校 (13.7%)	10校 (16.1%)	1校 (5.0%)
20～30年未満	5校 (3.8%)	5校 (8.1%)	0校 (0.0%)
30～40年未満	32校 (24.4%)	13校 (21.0%)	8校 (40.0%)
40年以上	76校 (58.0%)	34校 (54.8%)	11校 (55.0%)
計	131校	62校	20校

※平成26年4月現在

※学校の主要施設のみ

※特別支援学校等には、市立の高校  
高等理美容、高等専修、幼稚園を含む

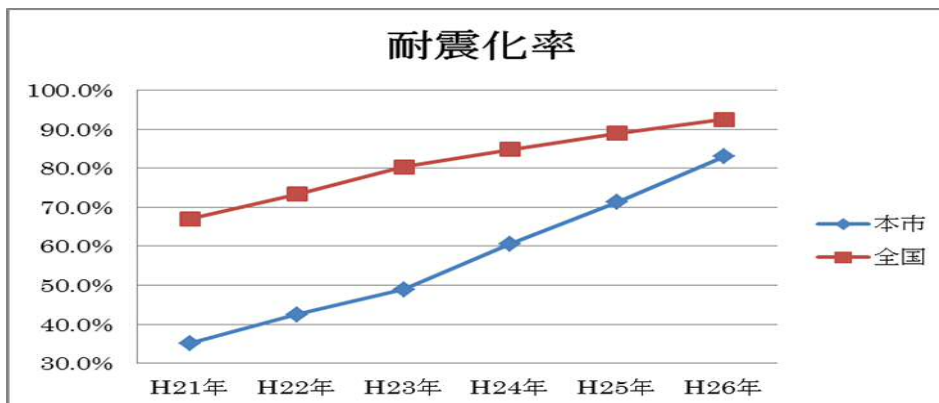


(教育委員会調べ)

(イ) 学校施設の耐震化の状況

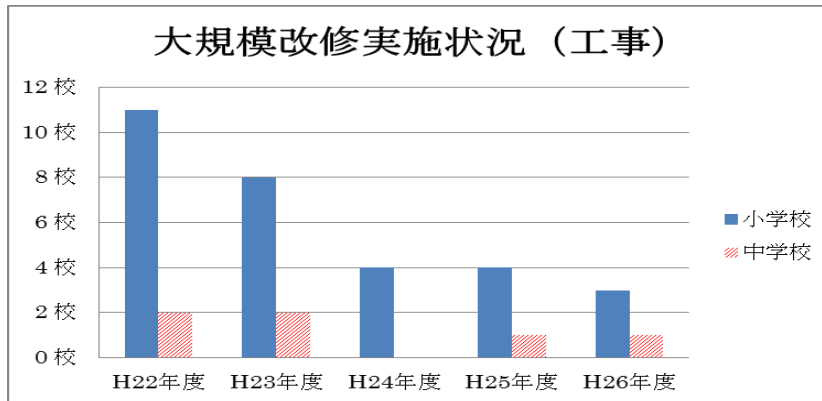
	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27
本市	35.2%	42.5%	48.9%	60.6%	71.3%	83.0%	93.3%
全国	67.0%	73.3%	80.3%	84.8%	88.9%	92.5%	—

各年4月現在



## (ウ) 大規模改修

年度	H22	H23	H24	H25	H26
小学校	11校	8校	4校	4校	3校
中学校	2校	2校	0校	1校	1校
合計	13校	10校	4校	5校	4校



## (エ) 校舎の建替え（着手年度で計上）

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
学校数	1校	1校	0校	0校	2校	0校	2校	2校

（教育委員会調べ）

## ② 普通教室へのエアコン設置

夏場の教室室温を30度以下に保ち、良好な学習環境を作るために、普通教室等にエアコンを設置する。

## （現状と課題）

- 地震に強く安全な教育環境整備のために、平成27年度までに学校施設の耐震化を完了する。
- 大規模改修や校舎の建替え、暑さ対策等、充実した教育活動につながる快適な教育環境の整備を計画的にすすめる。

(2) 学校規模適正化

学校規模適正化は、児童・生徒の教育効果の向上と教育環境の整備を目的として行うものである。

◇学校規模適正化基準

本市においても、昭和 60 年に策定した基準に基づき、次のとおり、学校規模適正化を実施してきた。

【学校統合】(小学校) 27 校→13 校 (▲14 校)

(中学校) 16 校→ 7 校 (▲ 9 校)

【分離新設】(小学校) 2 校→ 4 校 (+ 2 校)

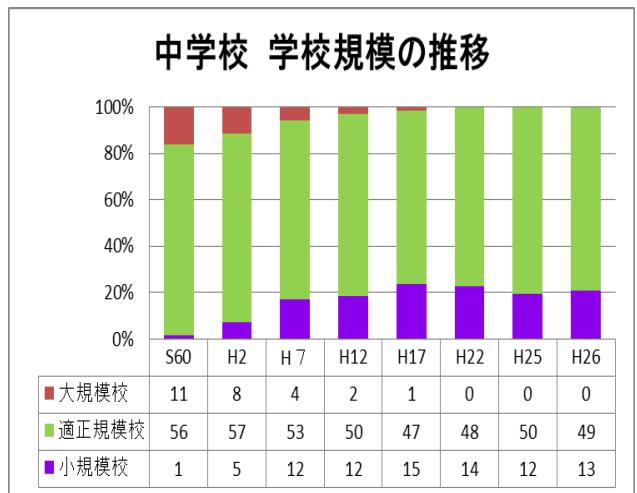
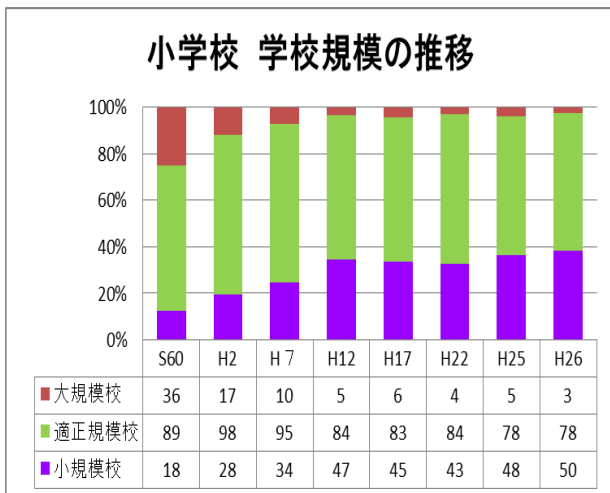
(中学校) 2 校→ 4 校 (+ 2 校)

しかしながら、この基準は、市街地の小規模校を対象としており、全市的に少子化が進んでいる現状に合わなくなっているなど見直しが必要となった。

そこで、平成 26 年 3 月に学校規模適正化の基準の見直しを行った。

**■新たな学校適正化基準（平成 26 年 3 月策定）**

- 適正規模を小学校 12～24 学級、中学校 9～24 学級とする  
 ※小規模校：小学校 11 学級以下、中学校 8 学級以下  
 大規模校：小学校、中学校 25 学級以上
- 全市域を学校規模の適正化の対象とする
- 統合してもなお適正規模に達しない場合であっても、複式学級の解消など教育効果の向上が図られる場合は対象とする
- 小・中の校区形態は、2 小学校区で 1 中学校区を構成することを基本とするが、1 小 1 中学校区でも学校統合を進める



(現状と課題)

- 教育効果の向上と教育環境の整備を図るため、学校規模適正化の必要について理解いただくとともに、新たに策定した基準に基づき、学校規模の適正化に取り組んでいく。

7 学校、家庭、地域の連携

(1) 学校でのボランティア等の状況

項目	活動内容
<p><b>安全対策・相談支援</b></p> <p>小学校 130 校/131 校中 中学校 51 校/62 校中 特支学校 4 校/9 校中 幼稚園 6 園/8 園中</p>	<p>登下校の見守り活動</p> <p>日中の校地内巡視</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校地内中巡視、校内の危険箇所のチェック、危険物の除去等</li> <li>校内美化（ごみ拾い、水槽水替え等）、落し物・忘れ物の回収</li> <li>子どもの相談相手（休み時間、放課後等）、子どもへの声かえ・安全監視</li> <li>休み時間中の遊びの支援・見守り 他</li> </ul>
	<p>学校開放週間での安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公開行事の安全確保</li> <li>玄関等での受付補助 他</li> </ul>
<p><b>教育活動支援</b></p> <p>小学校 131 校/131 校中 中学校 49 校/62 校中 特支学校 9 校/9 校中 幼稚園 8 園/8 園中</p>	<p>授業等での学習指導補助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プリント・ドリルの採点補助</li> <li>水泳学習支援（プールの監視補助等） 他</li> </ul>
	<p>教材準備・教室整備補助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材づくり補助、パソコンでの課題入力、プリントの印刷</li> <li>作業・実習の道具準備、後片付け</li> <li>自然体験学習の準備補助（花植えや野菜づくりに伴う事前の草取り等） 他</li> </ul>
	<p>技術指導などの学習支援（ゲストティーチャー等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>合唱指導 ・英会話指導 ・コンピュータ指導 ・球技大会等指導</li> <li>野菜栽培指導 ・稲作体験指導 ・昔体験指導（道具、遊び等）</li> <li>七輪火起こし ・踊り・和太鼓など芸能指導 他</li> </ul>
	<p>部活動指導補助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動名（野球、バスケット、テニス、茶道、演劇等）</li> </ul>
	<p>クラブ活動指導補助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラブ活動名（和太鼓、茶華道、伝統文化、手話、バトミントン等）</li> </ul>
	<p>清掃指導補助</p>
	<p>給食指導補助</p>
	<p>放課後学習支援</p>
	<p>学校行事の準備・手伝い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体育大会、文化祭、地域清掃、もちつき大会、稲刈り、ウォークラリー等</li> </ul>
	<p>校外活動における引率補助</p>
	<p>校内の環境整備補助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>花壇の整備、樹木の剪定、草取り等</li> </ul>
	<p>校内掲示等の整理補助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内掲示板の整理・飾り付け等</li> </ul>
	<p>施設の補修・修繕補助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内備品の補修・修繕等</li> </ul>
	<p><b>ブックヘルパー</b></p> <p>小学校 129 校/131 校中 中学校 62 校/62 校中 特支学校 2 校/9 校中 幼稚園 6 園/8 園中 高校 1 校/1 校中</p>
<p><b>特別支援教育支援</b></p>	<p>障害のある子どもへの学校生活の軽微な支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>車椅子の介助、教室内の移動補助、トイレの見守り等</li> </ul> <p>校外活動の指導・引率補助、風船バレーの指導等</p>



ブックヘルパー（本の貸し出し）



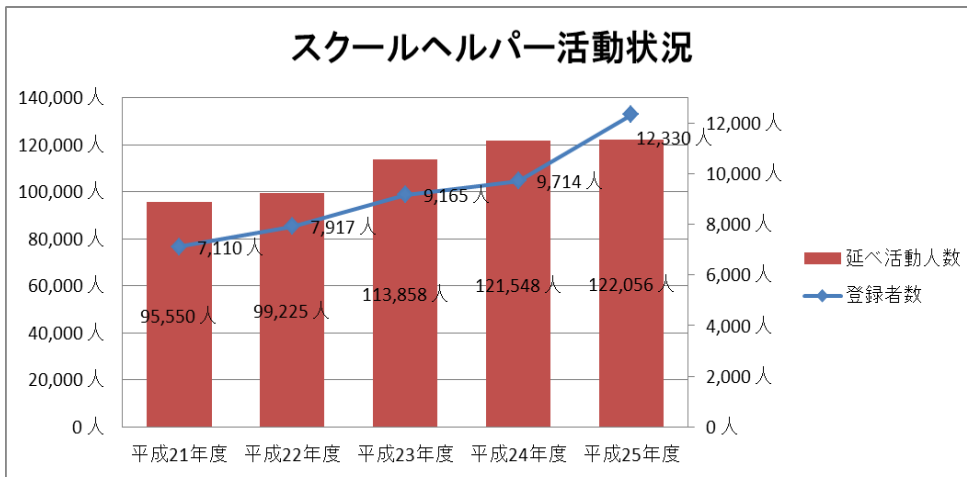
登下校の見守り

(2) スクールヘルパー

保護者や地域の方などが、学校に登録し、子どもの安全対策や授業の支援などに従事するボランティア制度

○スクールヘルパーの活用状況

項目	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
登録者数	7,110 人	7,917 人	9,165 人	9,714 人	12,330 人
延べ活動人数	95,550 人	99,225 人	113,858 人	121,548 人	122,056 人



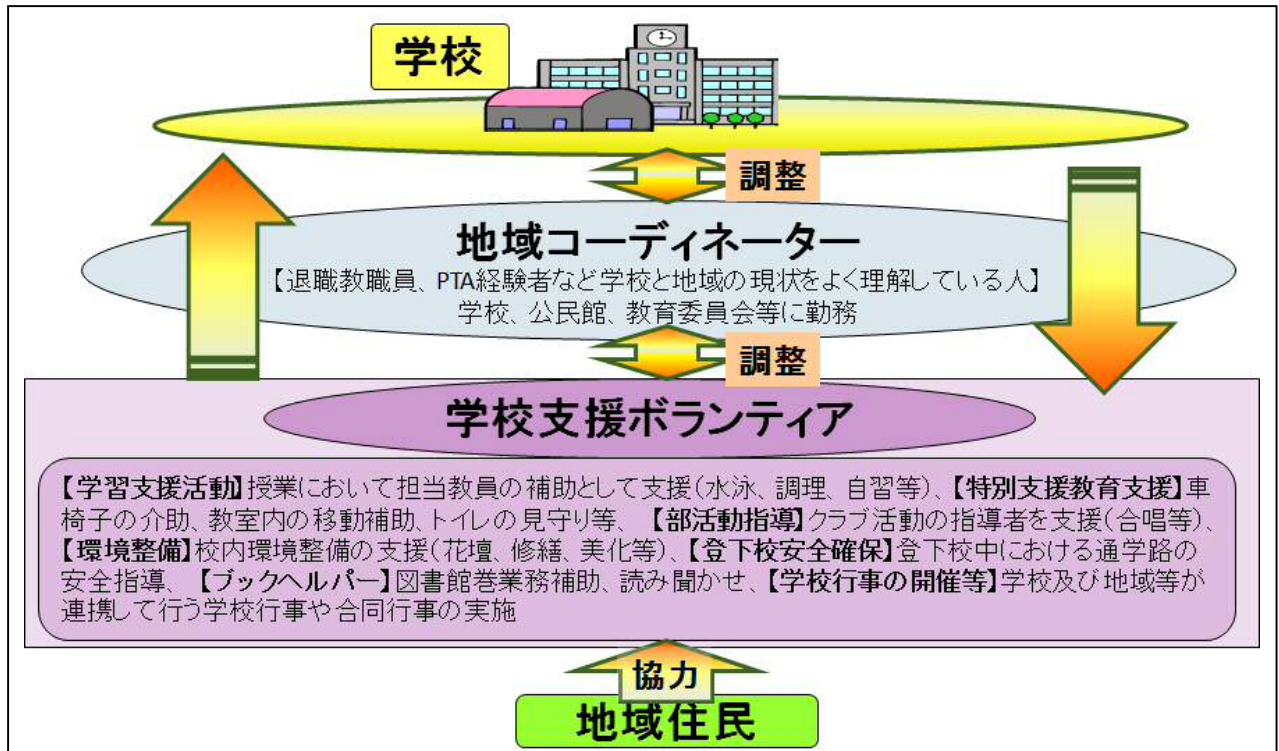
区分	概要	平成 25 年度 活動回数
安全対策	ア 校内巡視、通学路の安全確保 イ 休み時間等の子どもの相談対応	61,191 回
教育活動支援	ア 教員と連携した教材準備や教室整備 イ 地域の方々の経験や特技を生かした授業支援	16,737 回
特別支援教育	学校・園生活における移動補助など軽微な生活支援	1,548 回
ブックヘルパー	モデル校区配置の学校図書館職員と連携した学校図書館の整備・運営支援	31,648 回
学校支援地域本部 (学校支援ボランティア)	学校と地域のパイプ役となる地域コーディネーターを配置し、学校のニーズに応じたボランティアの確保・活用による様々な教育活動支援	10,932 回

(教育委員会調べ)



(3) 学校支援地域本部事業

学校の要望に応じて、地域コーディネーターの調整により、地域住民が学校の教育活動を支援する取組み（平成26年度実績 42中学校区で実施）



(4) 経済界との連携による学校支援事業（小学校応援団）

経済界と連携することで、企業のもつ人材や経営のノウハウなどを活かし、出前授業や体験活動、教職員を対象とした研修などに取り組む。また、従業員に対しても学校の教育活動などに参加するように促す。

小学校応援団・・・北九州市の明日を担う子どもたちの健全育成を目指し、地元の企業が参加・協力して、継続的に市立小学校を支援するもの。

※平成27年1月現在 224社

項目	H24年度	H25年度
児童の学習支援（出前授業、体験学習受入れ）	15件	34件
教職員の研修支援（ビジネスマナー等）	4件	11件
PTA研修（研修講師派遣、工場見学受入れ）	0件	4件
企業の親学支援（従業員に対するPTA活動や家庭教育の啓発等）	2件	0件

（教育委員会調べ）



ロボット工場見学



走り方教室

(現状と課題)

- 地域の方や保護者がさまざまな形で学校の教育活動や児童の安全確保などで協力をいただいている。
- 学校支援地域本部事業や地元経済界による学校支援など、地域が学校を支える仕組みのさらなる充実が必要となっている。



